

**IBM® WebSphere® Commerce for Solaris™**  
**オペレーティング環境ソフトウェア**



**クイック・スタート**

バージョン 5.4



**IBM® WebSphere® Commerce for Solaris™**  
**オペレーティング環境ソフトウェア**



## **クイック・スタート**

**バージョン 5.4**

**ご注意!**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、83 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書の内容は、新版で特に指定のない限り IBM® WebSphere Commerce Professional and Business Edition for Solaris Operating Environment ソフトウェア バージョン 5.4 以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。製品のレベルにあった版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは <http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

**原 典 :** GC09-4953-00  
IBM® WebSphere® Commerce  
for Solaris™ Operating Environment software  
Quick Beginnings  
Version 5.4

**発 行 :** 日本アイ・ビー・エム株式会社

**担 当 :** ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

# 目次

## 第 1 部 WebSphere Commerce のインストールの準備 . . . . . 1

### 第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ 3

本書の表記規則 . . . . .	3
デフォルトのインストール・パス . . . . .	4
サポートされる Web ブラウザー . . . . .	4
WebSphere Commerce で使用されるポート番号	4
WebSphere Commerce で使用されるロケール	5
ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表 . . . . .	6

### 第 2 章 インストール前の要件 . . . . . 9

知識に関する要件 . . . . .	9
前提条件となるハードウェア . . . . .	10
前提条件となるソフトウェア . . . . .	10
その他の要件 . . . . .	11
Solaris カーネル構成パラメーターを DB2 用に更新する . . . . .	12
インストール前の要件のチェック . . . . .	14

## 第 2 部 WebSphere Commerce のインストール . . . . . 15

### 第 3 章 IBM DB2 Universal Database

7.1.0.55 のインストール . . . . .	17
プリインストール・ステップ . . . . .	17
インストール手順 . . . . .	17
db2fadm1 グループを db2inst1 2 次グループに追加する . . . . .	21
データベース・マネージャーが jdbc2 を使用するよう構成する . . . . .	21
WebSphere Application Server データベースの作成 . . . . .	22
次のステップ . . . . .	23

### 第 4 章 WebSphere Application Server

4.0.2 のインストール . . . . .	25
章チェックリスト . . . . .	25

WebSphere Application Server のインストール手順 . . . . .	25
インストール内容のテスト . . . . .	28
次のステップ . . . . .	29

### 第 5 章 WebSphere Commerce のインストール . . . . . 31

インストール手順 . . . . .	31
WebSphere Commerce ドキュメンテーションの入手方法 . . . . .	32
DB2、WebSphere Application Server、および Sun JDK のバージョン・アップグレード . . . . .	33
次のステップ . . . . .	34

### 第 6 章 IBM Payment Manager 3.1.2 のインストール . . . . . 35

インストールの前提条件 . . . . .	35
Payment Manager のインストール . . . . .	36
Payment Manager 管理者の役割 . . . . .	38
次のステップ . . . . .	38

## 第 3 部 WebSphere Commerce インスタンスの構成 . . . . . 39

### 第 7 章 構成前のステップ . . . . . 41

インストール後スクリプトの実行 . . . . .	41
WebSphere Application Server の始動 . . . . .	42
次のステップ . . . . .	42

### 第 8 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成 . . . . . 43

章チェックリスト . . . . .	43
構成マネージャーの起動 . . . . .	43
インスタンス作成ウィザード . . . . .	44
「インスタンス」 . . . . .	45
データベース . . . . .	45
「言語」 . . . . .	47
「Web サーバー」 . . . . .	47
WebSphere . . . . .	48
Payment Manager . . . . .	48
「ログ・システム」 . . . . .	49

メッセージング . . . . .	50
オークション . . . . .	51
インスタンス作成の検証 . . . . .	51
次のステップ . . . . .	52
<b>第 9 章 構成後のステップ . . . . .</b>	<b>53</b>
JavaServer Pages ファイルのコンパイル . . . . .	53
テスト用のセキュリティ鍵ファイルの作成 . . . . .	54
WebSphere Commerce で実行するための	
Payment Manager の構成 . . . . .	54
Payment Manager の設定を構成する . . . . .	56
セキュリティ・チェッカーの実行 . . . . .	56
次のステップ . . . . .	57

---

## 第 4 部 WebSphere Commerce によるストアの作成 . . . . . 59

<b>第 10 章 サンプル・ストア・アーカイブから ストアを作成する . . . . .</b>	<b>61</b>
ストア・アーカイブの作成 . . . . .	62
ストア・アーカイブの発行 . . . . .	63
ストア・サービスからストア・アーカイブ を発行する . . . . .	64
ストアにテスト・オーダーを発行する . . . . .	66

---

## 第 5 部 付録 . . . . . 67

<b>付録 A. WebSphere Commerce コンポーネ ントの開始と停止 . . . . .</b>	<b>69</b>
WebSphere Commerce の開始と停止 . . . . .	69
WebSphere Application Server の開始と停止 . . . . .	69
IBM HTTP Server の開始と停止 . . . . .	70
DB2 Universal Database の開始と停止 . . . . .	71

Payment Manager の開始と停止 . . . . .	71
Payment Manager アプリケーション・サー バーの開始 . . . . .	72
Payment Manager の開始 . . . . .	72
Payment Manager ユーザー・インターフェ ースの開始 . . . . .	73
Payment Manager の停止 . . . . .	74
Payment Manager アプリケーション・サー バーの停止 . . . . .	74

## 付録 B. 情報の入手場所 . . . . . 75

WebSphere Commerce の情報 . . . . .	75
オンライン・ヘルプの使用 . . . . .	75
印刷可能なドキュメンテーションの入手方 法 . . . . .	75
WebSphere Commerce Web サイトの閲覧 . . . . .	75
IBM HTTP Server の情報 . . . . .	76
Payment Manager の情報 . . . . .	76
WebSphere Application Server . . . . .	77
DB2 Universal Database の情報 . . . . .	77
Solaris Operating Environment ソフトウェアの 情報 . . . . .	77
ダウンロード可能なツール . . . . .	77
WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker . . . . .	77
その他の IBM 出版物 . . . . .	78

## 付録 C. プログラム仕様と所定稼働環境 . . . 79

<b>特記事項 . . . . .</b>	<b>83</b>
商標 . . . . .	85
<b>索引 . . . . .</b>	<b>87</b>

---

# 第 1 部 WebSphere Commerce のインストールの準備

第 1 部の各章では、WebSphere Commerce の基本的な解説を述べてから、WebSphere Commerce のインストールを正常に完了するのに必要な前提条件のハードウェア、ソフトウェア、必要な知識、およびユーザー権限について説明します。各章に述べられているすべての要件がシステムで確実に満たされていれば、インストールを完了するための作業がかなり容易になります。

WebSphere Commerce のどのコンポーネントをインストールする場合でも、以下の章を事前に完了している必要があります。

- 3 ページの『第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ』





---

## 第 1 章 WebSphere Commerce へようこそ

本書では、単一のマシンに WebSphere Commerce 5.4 の主要コンポーネントをインストールして構成する方法、そしてサンプルのストアの 1 つを作成する方法について説明します。対象となる読者は、システム管理者など、インストール作業と構成作業を実行する人です。拡張構成のシナリオの詳細は、*WebSphere Commerce 5.4 インストール・ガイド* を参照してください。

WebSphere® Commerce Studio のインストールと構成の手順については、*IBM WebSphere Commerce Studio for Windows NT® and Windows® 2000 インストール・ガイド* をご覧ください。

製品に加えられた最新の変更事項については、README ファイルをご覧ください。そのファイル、および本書の更新済みコピーは、WebSphere Commerce の Web サイトの「Library」→「Technical Library」のセクションから PDF ファイルの形式で入手できます。その Web サイトは、以下のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/library.html>

---

### 本書の表記規則

本書では、以下の規則を使用しています。

太文字	フィールド名、アイコン名、またはメニュー選択項目などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) のコントロール、またはコマンドを示します。
モノスペース (Monospace)	示されているとおりに入力するテキスト例、ファイル名、ディレクトリー・パスおよび名前を示します。
イタリック	用語を強調するのに使用します。また、実際のシステムに合わせて該当する値に置き換えることが必要な名前を示す場合もあります。
<i>host_name</i>	WebSphere Commerce サーバーの完全修飾ホスト名 (たとえば <code>server1.torolab.ibm.com</code> は完全修飾名)。
<i>instance_name</i>	作業対象の WebSphere Commerce インスタンスの名前。

---

## デフォルトのインストール・パス

本書でインストール・パスについて述べられている場合、デフォルトのパス名として次のものを使用します。

WebSphere Commerce 5.4	/opt/WebSphere/CommerceServer
IBM DB2 Universal Database 7.1.0.55 Enterprise Edition	/opt/IBMDB2/V7.1
IBM HTTP Server 1.3.19.1	/opt/IBMHTTPD
WebSphere Application Server 4.0.2	/opt/WebSphere/AppServer
IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2	/opt/PaymentManager

---

## サポートされる Web ブラウザー

WebSphere Commerce のツールとオンライン・ヘルプには、WebSphere Commerce のマシンと同じネットワーク上であって Windows オペレーティング・システムが実行されているマシンにおいて、Microsoft® Internet Explorer 5.5 を使用してのみアクセスできます。Internet Explorer は、5.50.4522.1800 のフル・バージョンのもの (Internet Explorer 5.5 Service Pack 1 およびインターネット・ツール) あるいはそれ以降のものに対して Microsoft による最新の重要なセキュリティ更新を適用したものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce のツールが完全にはサポートされていません。

顧客は、以下のいずれかの Web ブラウザーを使用して Web サイトにアクセスできます。これらは、すべて WebSphere Commerce でテスト済みです。

- Netscape Communicator 4.6 でサポートされている Netscape Navigator のすべてのバージョン (Netscape Navigator 4.04 および 4.5 を含む)
- Netscape Navigator 3.0 および 4.0 for Macintosh
- Microsoft Internet Explorer 4 および 5
- AOL 5 および 6

---

## WebSphere Commerce で使用されるポート番号

以下に、WebSphere Commerce またはそのコンポーネント製品によって使用されるデフォルトのポート番号のリストを示します。WebSphere Commerce 以外のアプリケーションでは、これらのポートを使用しないようにしてください。システムにファイアウォールが構成されている場合には、これらのポートがアクセス可能になっていることを確認してください。

ポート番号	使用するソフトウェア
80	IBM HTTP Server
443	IBM HTTP Server
900	WebSphere Application Server ブートストラップ
1099	WebSphere Commerce 構成マネージャー
2222	ユーザー wasuser としてアクセスされる WebSphere Application Server
8000	WebSphere Commerce Tools
8080	WebSphere Test Environment for VisualAge <sup>®</sup> for Java <sup>™</sup>
8611	Payment Manager
8620	Payment Manager Cassette for SET <sup>™</sup>
9000	WebSphere Application Server Location Server
16999	WebSphere Commerce Cache Daemon (デフォルト)
50000	DB2 <sup>®</sup> connect (デフォルト)
50001	DB2 割り込み (デフォルト)

---

## WebSphere Commerce で使用されるロケール

WebSphere Commerce では、有効な Java のロケールだけが使用されます。使用する言語に該当するロケールがシステムにインストールされていることを確認してください。また、ロケールに関係するすべての環境変数には、WebSphere Commerce でサポートされているロケールを含めるようにしてください。WebSphere Commerce でサポートされているロケールのコードは、以下の表に示すとおりです。

言語	ロケール・コード	LC_ALL 値
ドイツ語	de_DE	de_DE.ISO8859-1
英語	en_US	en_US.ISO8859-1
スペイン語	es_ES	es_ES.ISO8859-1
フランス語	fr_FR	fr_FR.ISO8859-1
イタリア語	it_IT	it_IT.ISO8859-1
日本語	ja_JP	ja_JP.eucJP
韓国語	ko_KR	ko_KR.EUC
ブラジル・ポルトガル語	pt_BR	pt_BR.ISO8859-1
中国語 (簡体字)	zh_CN	zh_CN.GBK
中国語 (繁体字)	zh_TW	zh_TW.BIG5

ロケールを調べるには、次のコマンドを実行します。

```
echo $LANG
```

使用するロケールがサポートされていない場合には、ルート・ユーザーとして次のコマンドを実行することによって、ロケールのプロパティを変更してください。

```
LANG=xx_XX  
export LANG
```

xx\_XX は、上記の表に示されている 4 文字のロケール・コードです。大文字小文字の別は、表のとおりでなければなりません。

#### 重要

WebSphere Commerce とそのコンポーネントのインストールおよび構成作業においては、ロケールを en\_US に設定する必要があります。ロケールの設定が間違っていると、インストールや構成の作業が正常に完了しないことがあります。

## ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表

WebSphere Commerce 環境での管理には、さまざまなユーザー ID が必要です。それらのユーザー ID と、それに必要な権限のリストを、次の表に示します。各 WebSphere Commerce ユーザー ID ごとにデフォルトのパスワードを示しています。

ユーザー ID	デフォルト値	備考
構成マネージャーのユーザー ID	構成マネージャーのデフォルト・ユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です。	構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースを使用すれば、WebSphere Commerce の構成方法を変更できます。構成マネージャーには、WebSphere Commerce マシンから、または WebSphere Commerce と同じネットワーク上の任意のマシンからアクセスできます。
IBM HTTP Server のユーザー ID	適用されない	Web サーバーのホーム・ページには、Web ブラウザーをオープンし、以下の Web アドレスを入力することによってアクセスできます。 <code>http://host_name</code>

<p>WebSphere Commerce インスタンス管理者</p>	<p>インスタンス管理者のデフォルト・ユーザー ID は wcsadmin、デフォルト・パスワードは wcsadmin です。  <b>注:</b> wcsadmin ユーザー ID は、決して削除しないでください。また、それには常にインスタンス管理者の権限が付与されていなければなりません。</p>	<p>インスタンス管理者のユーザー ID とパスワードは、以下の WebSphere Commerce ツールに適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• WebSphere Commerce Accelerator。 Windows オペレーティング・システムが実行されているリモート・マシンから WebSphere Commerce Accelerator にアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーをオープンしてから、以下の Web アドレスを入力します。  https://host_name:8000/accelerator</li> <li>• WebSphere Commerce 管理コンソール。 Windows オペレーティング・システムが実行されているリモート・マシンから WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーをオープンしてから、以下の Web アドレスを入力します。  https://host_name:8000/adminconsole</li> <li>• ストア・サービス。ストア・サービスのページには、Web ブラウザーをオープンし、以下の Web アドレスを入力することによってアクセスできます。  https://host_name:8000/storeservices</li> </ul> <p>WebSphere Commerce では、ユーザー ID とパスワードが次の規則になっている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードの長さは最低 8 文字。</li> <li>• パスワードには、少なくとも 1 つの数字が含まれなければなりません。</li> <li>• パスワードには、同じ文字が 4 回を超えて出現してはなりません。</li> <li>• パスワードには、同じ文字を 3 回を超えて繰り返すことはできません。</li> </ul>
-------------------------------------	--	---

<p>Payment Manager 管理者</p>	<p>Payment Manager をインストールする時点で、WebSphere Commerce 管理者 ID wcsadmin に Payment Manager 管理者役割が自動的に割り当てられます。ログオン・ユーザー ID wcsadmin は削除したり名前を変更したりしないでください。また、wcsadmin に事前に割り当てられている Payment Manager の役割は変更しないようにしてください。もし変更すると、Payment Manager の整合性に関連した WebSphere Commerce の機能が動作しなくなります。</p>	<p>Payment Manager 管理者役割が割り当てられているユーザー ID では、Payment Manager の制御と管理が可能です。</p>
----------------------------	---	---

---

## 第 2 章 インストール前の要件

このセクションでは、WebSphere Commerce をインストールする前に実行しておくことの必要なステップについて説明します。

ここで説明されているステップを実行するには、root ユーザー・アクセスが必要です。

### 重要

正常にインストールするためには、ここで説明するインストールの前提となるすべてのステップを実行しなければなりません。

---

### 知識に関する要件

WebSphere Commerce をインストールおよび構成するには、以下のことに関する知識が必要です。

- 使用するオペレーティング・システム
- インターネット
- Web サーバーの運用と保守
- IBM DB2 Universal Database™
- WebSphere Application Server 管理コンソール
- オペレーティング・システムの基本的なコマンド

ストアを作成しカスタマイズするには、以下のことに関する知識が必要です。

- WebSphere Application Server
- IBM DB2 Universal Database
- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java のプログラミング

ストアまたはモールのカスタマイズについては、*WebSphere Commerce プログラマーズ・ガイド* および *WebSphere Commerce ストア開発者ガイド* をご覧ください。

WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Studio には、いずれもこれらのマニュアルが付属しています。

---

## 前提条件となるハードウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低限のハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

- Solaris 8 Operating Environment (SPARC プラットフォーム版) ソフトウェアをサポートするプロセッサ (Sun SPARC または UltraSPARC ステーションなど) で、以下の仕様のもの。
  - 400 MHz のプロセッサ。
  - プロセッサ当たり 1 GB 以上のランダム・アクセス・メモリー (RAM)。
  - それぞれの WebSphere Commerce インスタンスごとに、追加の 512 MB の RAM。
  - 必須コンポーネントとオプション・コンポーネントのすべてをインストールする場合は、6 GB 以上の空きディスク・スペース (以下のような、推奨されるファイル・サイズの割り振りを含みます)。
    - /opt: 4 GB
    - /export: 1 GB
    - 一時ディレクトリ: 1.5 GB
  - プロセッサ当たり 1 GB 以上のスワップ・スペース。
  - TCP/IP プロトコル・スタックを使用してネットワーク接続を確立する通信ハードウェア・アダプター。
  - CD-ROM ドライブ。
  - グラフィックス表示可能モニター。

---

## 前提条件となるソフトウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低限のソフトウェア要件を満たしていることを確認してください。

- システムに Web ブラウザーがインストール済みであることを確認してください。
- 最新の Solaris Patch Cluster をインストール済みの、Solaris 8 Operating Environment (SPARC プラットフォーム版) ソフトウェア (Maintenance Level 5) 以上が実行されていることを確認してください。どのリリースがシステムにインストール済みであるかを判別するには、以下のコマンドを実行します。

```
cat /etc/release
```

**注:** WebSphere Commerce において、Solaris 8 Operating Environment (Intel プラットフォーム版) ソフトウェアはサポートされていません。

- 以下に示すレベル以上の Solaris パッチがインストール済みであることを確認してください。
  - 108940-14



- 108652-27
- 108921-11
- 108434-01
- 109147-06
- 108827-01

パッチ・レベルをチェックするには、`showrev -p` コマンドを使用することができます。`showrev -p` コマンドの使用方法について、詳しくはご使用の Solaris の資料を参照してください。

- スタック割り当て量の限界が少なくとも 32768 であることを確認してください。現在の限界をチェックするには、コマンド・ウィンドウで以下のように入力します。

```
ulimit -a
```

戻されたスタックの値が 32768 より小さい場合、次のようなコマンドを実行してこのレベルを増やしてください。

```
ulimit -s 32768
```

---

## その他の要件

WebSphere Commerce をインストールする前に、さらに、以下のことを実行する必要があります。

- マシン上で Lotus® Notes™ などのサーバーが実行されている場合には、そのサーバーを停止します。マシン上に現在ポート 80、ポート 443、またはポート 8000 を使用している Web サーバーがあるなら、それを無効にしてください。
- WebSphere Commerce では IP アドレスとホスト名の両方が使用されるため、システムの IP アドレスがホスト名に対応付けされていなければなりません。IP アドレスを判別するには、コマンド・ウィンドウを開いて次のように入力します。

```
nslookup host_name
```

正しい IP アドレスからの応答があればよいということになります。

- Web サーバーのホスト名に下線 ( `_` ) が含まれないようにしてください。IBM HTTP Server は、ホスト名に下線が含まれるマシンをサポートしていません。

## Solaris カーネル構成パラメーターを DB2 用に更新する

### 重要

Solaris のカーネル・ファイル・パラメーターを以下の表のように設定することは、必須です。この説明に従ってパラメーターを設定しない場合、DB2 は DB2 インスタンス ID を作成できません。多層構成にする場合、すべてのマシンでこれらのパラメーターを設定する必要があります。

Solaris カーネル・ファイル・パラメーターを設定した後、変更内容を有効にするために、マシンを再始動する必要があります。

DB2 Universal Database を使用している場合、ユーザー ID root としてログインし、テキスト・エディターを使用して、以下で説明するパラメーターを Solaris カーネル・ファイル /etc/system に追加します。カーネル・パラメーターを設定するには、ファイル /etc/system の末尾に次のような行を追加します。

```
set parameter-name=value
```

カーネル・ファイル内に入力するすべてのステートメントの終わりには、スペースを残さないでください。以下の一連のパラメーターでは、実際のシステム構成に該当する値を選んでください。

**注:** これらの値の一部は、以前のリリースの DB2 UDB から更新されています。

WebSphere Commerce Suite バージョン 5.1 および DB2 UDB の前のバージョンから移行している場合には、これらのパラメーターを新しい値に更新する必要があります。

表 1. Solaris カーネル構成パラメーター (推奨値)

カーネル構成 パラメーター	物理メモリー			
	64 MB ~ 128 MB	128 MB ~ 256 MB	256 MB ~ 512 MB	512 MB+
msgsys:msginfo_msgmax	65535 (1)	65535 (1)	65535 (1)	65535 (1)
msgsys:msginfo_msgmnb	65535 (1)	65535 (1)	65535 (1)	65535 (1)
msgsys:msginfo_msgmap	130	258	258	258
msgsys:msginfo_msgmni	128	256	256	256
msgsys:msginfo_msgssz	16	16	16	16
msgsys:msginfo_msgtql	256	512	1024	1024
msgsys:msginfo_msgseg	8192	16384	32767 (2)	32767 (2)

表 1. Solaris カーネル構成パラメーター (推奨値) (続き)

カーネル構成 パラメーター	物理メモリー			
	64 MB ~ 128 MB	128 MB ~ 256 MB	256 MB ~ 512 MB	512 MB+
shmsys:shminfo_shmmax	67108864 (3)	134217728 (3)	268435456 (3)	536870912 (3)
shmsys:shminfo_shmseg	50	50	50	50
shmsys:shminfo_shmmni	300	300	300	300
semsys:seminfo_semmni	128	256	512	1024
semsys:seminfo_semmap	130	258	514	1026
semsys:seminfo_semmns	256	512	1024	2048
semsys:seminfo_semmnu	256	512	1024	2048
semsys:seminfo_semume	50	50	50	50

上記の値は、DB2 用に最低限必要な値です。状況に応じて、これより大きくすることもできます。詳しくは、*IBM DB2 Universal Database for UNIX® Quick Beginnings Guide* を参照してください。

注:

1. パラメーター `msgsys:msginfo_msgmnb` および `msgsys:msginfo_msgmax` は、必ず 65535 以上に設定しなければなりません。
2. パラメーター `msgsys:msginfo_msgseg` は、32767 を超えて設定しないでください。
3. パラメーター `shmsys:shminfo_shmmax` は、上記の表に示される推奨値、または物理メモリーのバイト数の 200 % のうち、より大きい方の値を設定してください。たとえば、システムの物理メモリーが 256 MB の場合、パラメーター `shmsys:shminfo_shmmax` を  $536870912$  (つまり  $256*1024*1024*2$ ) に設定します。

カーネル構成パラメーターの更新例を示したサンプル・ファイルが、DB2 製品 CD-ROM の `/db2/install/samples` ディレクトリーにあります。これらのファイルの名前は、以下のとおりです。

**kernel.param.64MB**

システムの物理メモリーが 64 MB ~ 128 MB の場合

**kernel.param.128MB**

システムの物理メモリーが 128 MB ~ 256 MB の場合

**kernel.param.256MB**

システムの物理メモリーが 256 MB ~ 512MB の場合

## kernel.param.512MB

システムの物理メモリーが 512 MB を超える場合

ご使用のシステムの物理メモリーの大きさに応じて、適切なカーネル構成パラメーターを `/etc/system` ファイルに追加してください。必要に応じて、上記 13 ページの3 の説明に従って `shmsys:shminfo_shmmax` パラメーターの値を変更してください。

注: Solaris カーネル・パラメーターを更新した後は、マシンを再始動する必要があります。

---

## インストール前の要件のチェック

WebSphere Commerce Disk 2 CD には、システム・チェックを実行して適切なオペレーティング・システム、前提条件ソフトウェア、プリインストール・ソフトウェアが実装されているかどうかを判別するスクリプトが入っています。インストールを始める前に、このスクリプトを実行して、システムが WebSphere Commerce の要件をすべて満たしているかどうかを判別してください。さらに、インストール中の任意の時点でこのスクリプトを実行して、ソフトウェア・パッケージが正しくインストールされたことを確認することもできます。

このスクリプトを実行するには、以下のステップを実行します。

1. ユーザー ID `root` でログオンします。
2. 必要であれば、WebSphere Commerce Disk 2 CD をマウントします。その場合、次のように入力します。

```
mount CDROM_dir
```

*CDROM\_dir* は CD のマウント先に指定しようとしているディレクトリーです。

3. CD の `Software_Patches` ディレクトリーに移動します。
4. 以下のように入力して、スクリプトを実行します。

```
./wc54sunpreq.sh
```

---

## 第 2 部 WebSphere Commerce のインストール

WebSphere Commerce は、DB2 データベースと Oracle データベースをサポートします。本書では、WebSphere Commerce マシンに DB2 をインストールする方法だけを説明しています。リモート・マシンにインストールしたい場合や、Oracle データベースを使用したい場合は、該当する WebSphere Commerce インストール・ガイドを参照してください。他の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールする前に、データベースをインストールする必要があります。

WebSphere Commerce はその Web サーバーとして、IBM HTTP Server、iPlanet Web サーバー、および Domino Web サーバーをサポートします。Web サーバーは、他の WebSphere Commerce コンポーネントと同じマシン上にインストールするか、またはリモート・マシンにインストールできます。本書では、WebSphere Commerce マシンへの IBM HTTP Server のインストール方法のみを説明しています。Web サーバーを WebSphere Commerce マシン以外のマシンにインストールする場合や、iPlanet Web サーバーまたは Domino Web サーバーを使用する場合、WebSphere Commerce のインストール・ガイドの中の指示に従ってください。

データベースと Web サーバーのインストールが完了したら、WebSphere Application Server、WebSphere Commerce、および Payment Manager をインストールする必要があります。

- 17 ページの『第 3 章 IBM DB2 Universal Database 7.1.0.55 のインストール』
- 25 ページの『第 4 章 WebSphere Application Server 4.0.2 のインストール』
- 31 ページの『第 5 章 WebSphere Commerce のインストール』
- 35 ページの『第 6 章 IBM Payment Manager 3.1.2 のインストール』



---

## 第 3 章 IBM DB2 Universal Database 7.1.0.55 のインストール

この章では、IBM DB2 Universal Database 7.1.0.55 のインストールと WebSphere Application Server の作成の方法について説明します。この章のステップを実行するには、DB2 Universal Database CD が必要です。

### 重要

この章のステップを実行する前に、Solaris Operating Environment ソフトウェアのカーネル・パラメーターの更新を完了していなければなりません。12 ページの『Solaris カーネル構成パラメーターを DB2 用に更新する』の解説どおりに Solaris ソフトウェアのカーネル・パラメーターを更新しない場合、DB2 Universal Database のインストールの前にこのパラメーターを更新してコンピューターを再始動しなければなりません。Solaris ソフトウェアのカーネル・パラメーターが正しく設定されていないと、DB2 はデータベース・インスタンスを作成できません。

---

### プリインストール・ステップ

DB2 Universal Database をインストールする前に以下を確かめてください。

- このマシンから DB2 の前のバージョンをアンインストールした場合は、DB2 ファイルがすべて削除されていることを確認してください。システムに DB2 情報あるいは DB2 に関連するファイルが 1 つでも残っていると、正常に DB2 をインストールできなくなったり、インスタンスを作成できなくなることがあります。
- db2setup ユーティリティを使用すると、DB2 は、インスタンス・ユーザー ID を /export/home ディレクトリーに作成します。このディレクトリーは、DB2 Universal Database のインストールを開始する前に存在していなければなりません。ディレクトリーが存在しない場合、DB2 インスタンスの作成は失敗します。

---

### インストール手順

IBM DB2 Universal Database 7.1.0.55 をインストールするには、次のようにします。

1. ユーザー ID root でログインします。
2. マシンの CD-ROM ドライブに CD を挿入した後で DB2 Universal Database CD をマウントします。

3. 端末ウィンドウに以下のコマンドを入力して、CD の IBM DB2 Universal Database 7.1.0.55 インストール・ディレクトリーに移動します。

```
cd /CDROM_dir
```

`CDROM_dir` は、CD をマウントしているディレクトリーです。

4. DB2 をインストールするには、端末ウィンドウに以下のコマンドを入力して、`db2setup` ユーティリティーを始動します。

```
./db2setup
```

注:

- a. `db2setup` ユーティリティーは、`Bourne Again (bash)`、`Bourne`、および `Korn` の各シェルで使うことができます。その他のシェルはサポートされていません。
  - b. `db2setup` ユーティリティーは、インストール時のエラーを記録するためのトレース・ログを生成することができます。トレース・ログを生成するには、`./db2setup` コマンドではなく、`./db2setup -d` コマンドを入力します。  
`./db2setup -d` コマンドは、`/tmp/db2setup.trc` 内にログを生成します。
5. DB2 インストーラーが始動します。すでに DB2 コンポーネントがシステムにインストールされている場合は、「**Install (インストール)**」を選択します。選択し終わったら、`db2setup` プログラムがシステムをスキャンして現在の構成についての情報を調べます。

注: 初めて DB2 をインストールする場合、現在のシステム構成に関する情報のスキャンは、`db2setup` プログラムの開始後に始まります。その場合、「DB2 Installer (DB2 インストーラー)」ウィンドウで「**Install (インストール)**」を選択する必要はありません。

- a. 「**DB2 Administration Client (DB2 アドミニストレーション・クライアント)**」
- b. 「**DB2 UDB Enterprise Edition (DB2 UDB エンタープライズ・エディション)**」
- c. 「**Application Development Client (アプリケーション開発クライアント)**」
- d. DB2 メッセージを英語以外の言語で表示させる場合は、「**DB2 Product Messages (DB2 プロダクト・メッセージ)**」の横にある「**Customize (カスタマイズ)**」を選択し、「DB2 Messages (DB2 メッセージ)」ウィンドウを開きます。次に、使用する言語コードを強調表示してスペース・バーを押し、「**OK**」を強調表示して **Enter** キーを押します。
- e. 英語以外の言語で HTML 形式の DB2 資料をインストールしたければ、「DB2 Product Library (DB2 プロダクト・ライブラリー)」の近くの「**Customize (カスタマイズ)**」を強調表示してから、**Enter** を押して DB2 プロダクト・ライブラリー・ウィンドウを開きます。次に、使用する言語コードを強調表示してスペース・バーを押し、「**OK**」を強調表示して **Enter** キーを押します。



選択したオプションは、アスタリスク (\*) 付きで示されます。

7. 選択が完了したら、「OK」を強調表示して **Enter** キーを押します。
8. 「Create DB2 Services (DB2 サービスの作成)」ウィンドウが表示されます。  
「Create a DB2 Instance (DB2 インスタンスの作成)」を強調表示して **Enter** キーを押します。DB2 インスタンス・サブウィンドウが表示されます。
9. 以下のようにフィールドに入力します。

#### 「User Name (ユーザー名)」

使いたい DB2 インスタンス ID を入力します。(本書では、例としてインスタンス ID *db2inst1* を使用します。) このインスタンス ID は、以下の基準を満たしていなければなりません。

- 長さが 8 文字を超えてはならない。
- 使用できる文字は、A から Z、a から z、0 から 9、@、#、\$、および \_ のみである。
- 下線 (\_) で始まってはならない。
- 大文字、小文字、またはそれらの混合のどれであっても、USERS、ADMINS、GUESTS、PUBLIC、LOCAL のいずれも使用してはならない。
- 大文字、小文字、またはそれらの混合のどれであっても、IBM、SQL、SYS で始まってはならない。

#### 「Group Name (グループ名)」

他のどのユーザー ID にも現在使用していないグループ名を入力します。このグループは、自動的に DB2 インスタンスのシステム管理グループとなり、管理者権限が与えられます。

#### 「Password (パスワード)」

以下の基準を満たすパスワードを入力します。

- 長さが 8 文字を超えてはならない。
- 使用できる文字は、A から Z、a から z、0 から 9、@、#、\$、および \_ のみである。
- 下線 (\_) で始まってはならない。

#### 「Verify Password (確認パスワード)」

再度同じパスワードを入力します。

その他のフィールドではすべてデフォルトを受け入れ、「OK」を強調表示して **Enter** キーを押します。

10. 次のようなステップを行います。
  - a. 「Fenced User (分離ユーザー)」ウィンドウが表示されます。「OK」を強調表示して **Enter** キーを押し、デフォルトをすべて受け入れます。

- b. 「Notice (注意)」ウィンドウが表示され、システム生成パスワードを使用することが通知されます。「OK」を強調表示して **Enter** キーを押します。
  - c. 「DB2 Warehouse Control Database (DB2 ウェアハウス制御データベース)」ウィンドウがオープンします。「**Do not set up DB2 Warehouse Control Database (DB2 ウェアハウス制御データベースをセットアップしない)**」を選んでから、「OK」を強調表示し、**Enter** を押します。
  - d. 「Create DB2 Services (DB2 サービスの作成)」ウィンドウが表示されます。「OK」を強調表示して **Enter** キーを押します。
  - e. 「OK」を強調表示して **Enter** キーを押し、管理サーバーが作成されないことを示す警告メッセージを無視します。
11. 要約レポートが表示され、インストールされるコンポーネントがリストされます。「**Continue (続行)**」を強調表示して **Enter** キーを押します。
  12. 警告が表示され、これがインストールを中止する最後の機会であることが通知されます。「OK」を強調表示して **Enter** キーを押します。
  13. db2setup プログラムは、コンポーネントをインストールし、指定されたグループにインスタンス ID を作成します。これは、使用するプロセッサの速度に応じて数分かかります。インストール中に「**IBM Product Registration (IBM 製品の登録)**」ウィンドウが表示されることがあります。商品の登録を完了してから先に進んでください。インストール・プログラムが完了すると、正常完了かどうか「Notice (注意)」ウィンドウに通知されます。「OK」を強調表示して **Enter** キーを押します。
  14. 「Status Report (状況レポート)」をスキャンして、コンポーネントがすべて正常にインストールされ、DB2 のインスタンス ID が正常に作成されたことを確認してください。「OK」を強調表示して **Enter** キーを押します。

#### 重要:

db2setup が DB2 インスタンス ID を自動的に作成できなかった場合、次のようにして手動で DB2 インスタンスを設定します。

- a. 作成したすべての DB2 Universal Database ユーザーおよびグループと、そのホーム・ディレクトリーを除去します。
- b. 以下のように入力します。

```
cd /export/home/  
rm -r db2*
```

すべての DB2 Universal Database ファイルが削除されたことを確認してください。

- c. DB2 Universal Database CD から db2setup を実行します。本プロダクトをインストールしないで、「**Create an Instance (インスタンスの作成)**」を選択します。
15. 「DB2 Installer (DB2 インストーラー)」ウィンドウをクローズするには、「**Close (クローズ)**」を強調表示して **Enter** キーを押します。

16. 「OK」を強調表示して **Enter** キーを押し、管理サーバーが作成されないことを示すメッセージを無視します。
17. DB2 インストーラーの終了を確認するには、「OK」を強調表示し、**Enter** キーを押しします。
18. `cd /` と入力してルート・ディレクトリーに移動します。
19. `umount CDROM_dir` と入力して CD を取り外します。ただし `CDROM_dir` は、CD をマウントする際に指定したディレクトリーです。
20. DB2 Universal Database CD を取り出します。

---

## db2fadm1 グループを db2inst1 2 次グループに追加する

以下のステップを完了してください。

1. ユーザー ID `root` から、以下のコマンドを入力して管理ツールを開始します。  
`/bin/admintool&`
2. ユーザー `db2inst1` を編集します。
3. `db2fenc1` が属するグループ (デフォルトは `db2fadm1`) を 2 次グループに追加して、変更内容を保管します。
4. 管理ツールをクローズします。
5. 以下のように入力して、DB2 ユーザーに変更します。  
`su - db2inst1`
6. 以下のように入力して、DB2 を再始動します。  
`db2stop`  
`db2start`

---

## データベース・マネージャーが jdbc2 を使用するよう構成する

DB2 を使ってデータベースを作成する場合、次のようなステップを事前に行わなければなりません。

1. 次のように入力して `db2inst1` ユーザーに変更します。  
`su - db2inst1`
2. 以下のディレクトリーに移動します。  
`export/home/db2inst1`
3. `db2inst1 .profile` の末尾に、次のような行を追加します。  
`./sqllib/java12/usejdbc2`
4. ファイルを保管します。
5. `db2stop` と入力します。
6. `db2start` と入力します。
7. `exit` と入力します。

---

## WebSphere Application Server データベースの作成

データベースを作成するには、次のようなステップを行います。

1. 端末ウィンドウで以下を入力します。

```
su - db2inst1
db2 create database WAS
```

*WAS* は、作成しようとしている WebSphere Application Server データベースの名前です。

2. 以下のように、**db2 update db config** コマンドを使って、アプリケーション・ヒーブ・サイズを設定します。

```
db2 update db config for WAS using applheapsz 512
```

3. データベースの作成が完了したら、次のように入力して DB2 をいったん停止してから開始します。

```
db2stop
db2start
```

4. 以下を入力して、TCP/IP サービス名を判別します。

```
db2 get dbm cfg | grep -i SVC
```

5. WebSphere Application Server データベースがリモート・データベースであるものとして、以下を入力してこのデータベースをカタログします。

```
db2 catalog tcpip node node_name remote full_host_name server
TCP/IP_service_name
db2 catalog database WAS as WASLOOP at node node_name
```

*node\_name* は、このノードに割り当てようとしている名前、*full\_host\_name* は、データベース・サーバーの完全修飾ホスト名です。コマンドは、読みやすいように数行に分けて示しています。必ずそれぞれ 1 行ごとに入力してください。

6. 以下のように入力して、接続をテストします。

```
db2 connect to WASLOOP user username using password
```

WebSphere Application Server データベースの接続を検証するには、以下のステップを完了します。

1. 必ず、DB2 インスタンス所有者 *db2inst1* でログインします。
2. 次のような *db2* コマンドを使って、*WAS* という名前のデータベースに接続します。

```
db2 connect to WAS
```

3. 正しい出力は、次のようなものになります。

```
Database Connection Information
Database server          = DB2/Sun 7.2.3
SQL authorization ID    = DB2INST1
Local database alias    = WAS
```

4. データベースを切断し、DB2 インスタンス所有者としてログアウトするには、コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
db2 connect reset  
exit
```

---

## 次のステップ

IBM DB2 Universal Database 7.1.0.55 のインストールが完了したら、25 ページの『第 4 章 WebSphere Application Server 4.0.2 のインストール』に進んで WebSphere Application Server をインストールします。



---

## 第 4 章 WebSphere Application Server 4.0.2 のインストール

この章では、WebSphere Application Server 4.0.2 のインストール方法について説明します。この章のステップを実行するには、「WebSphere Application Server, Advanced Edition」の CD が必要です。

---

### 章チェックリスト

この章のステップを確実に正常完了するには、以下の要件を満たしていることを確認してください。

- 1. この章のステップを開始する前に、DB2 Universal Database をあらかじめインストールし、データベースの作成とカタログ化が完了していなければなりません。

---

### WebSphere Application Server のインストール手順

WebSphere Application Server 4.0.2 をインストールするには、次のようにします。

1. 必ず root のユーザー ID でログインします。
2. マシンの CD-ROM ドライブに CD を挿入した後で「WebSphere Application Server, Advanced Edition」の CD をマウントします。そうするには、端末ウィンドウに以下のコマンドを入力します。

```
mount CDROM_dir
```

*CDROM\_dir* は、CD ファイル・システムの割り振り時にマウント・ポイントと指定したディレクトリーです。

3. コマンド行で以下を入力して、CD-ROM のインストール・ディレクトリーに移動します。

```
cd CDROM_dir/sun
```

*CDROM\_dir* は、CD-ROM をマウントしているディレクトリーです。

4. 次のコマンドを入力してインストール・プログラムを開始します。

```
./install.sh
```

5. 「Welcome to the IBM WebSphere Application Server Setup program (WebSphere Application Server のセットアップ・プログラムへようこそ)」ダイアログ・ボックスがオープンします。「次へ」をクリックして、次へ進んでください。

6. 「Prerequisites Check (前提条件検査)」ウィンドウがオープンします。 WebSphere Application Server のインストール用の正しい前提条件製品があることを確認してから、「OK」をクリックします。
7. 「Install Options (インストール・オプション)」ダイアログ・ボックスがオープンします。「**Custom Installation (カスタム・インストール)**」を選択してから、「次へ」をクリックします。
8. 「WebSphere Install Packages (WebSphere インストール・パッケージ)」パネルが表示されます。以下のパッケージを選択します。
  - Server
  - Admin
  - Samples
  - Application Assembly and Deployment Tools
  - IBM HTTP Server 1.3.19
  - Web サーバー・プラグインすべてのパッケージを選択し終わったら、「次へ」をクリックします。
9. 「WebSphere Plugins (WebSphere プラグイン)」パネルが表示されます。 IBM HTTP Server 用のプラグインを選択し、「次へ」をクリックします。
10. 「Database Options (データベース・オプション)」ダイアログがオープンします。以下の解説どおりに行います。
  - a. 「Database Type (データベース・タイプ)」フィールドで、プルダウン・メニューから DB2 を選択します。
  - b. 「Remote DB (リモート DB)」が選択されていないことを確認します。
  - c. 「Database Name (Database SID) (データベース名 (データベース SID))」フィールドに、 WebSphere Application Server データベースの名前を入力します。たとえば、WASLOOP と入力します。
  - d. 「DB Home (DB ホーム)」フィールドで、 DB2 インスタンス所有者のホーム・ディレクトリーの絶対パス名 `/export/home/db2inst1` を入力するか、または「参照」ボタンを使ってホーム・ディレクトリーの絶対パス名を指定します。
  - e. 「DB URL」、「Server Name (サーバー名)」、および「Port Number (ポート番号)」フィールドは編集できません。
  - f. 「Database User ID (データベース・ユーザー ID)」フィールドで、データベース・インスタンス所有者の名前 `db2inst1` を入力します。
  - g. 「Database Password (データベース・パスワード)」フィールドに、データベース・インスタンス所有者の現在のパスワードを入力します。
  - h. 「次へ」をクリックして、次へ進みます。
11. 「Select Destination Directory (宛先ディレクトリーの選択)」ダイアログがオープンします。 IBM HTTP Server の使用時には、宛先ディレクトリーを変更できません。「次へ」をクリックして、次へ進んでください。



12. 「Install Options Selected (選択済みのインストール・オプション)」ダイアログ・ボックスがオープンします。表示内容が正しいことを確認してから「**Install (インストール)**」をクリックし、インストールを完了します。
13. 「構成ファイルのロケーション」ダイアログ・ボックスが表示され、指定した Web サーバー構成ファイルの絶対パス名を入力するようプロンプトで指示されます。たとえば、`/opt/IBMHTTPD/conf/httpd.conf` と入力します。この情報を入力する前に、別のコマンド・ウィンドウをオープンして、以下のコマンドを入力してください。

```
cd /opt/IBMHTTPD/conf
mv httpd.conf httpd.conf.orig
cp httpd.conf.sample httpd.conf
```

フィールドに入力するか、「参照」をクリックして、`httpd.conf` ファイルの絶対パス名を指定します。「次へ」をクリックします。

14. 「Setup Complete (セットアップの完了)」ダイアログ・ボックスがオープンします。README ファイルを見るには、「Yes, I want to view the ReadMe File (はい、README ファイルを読みます)」が選択されていることを確認してから、「**Finish (終了)**」をクリックします。これで、デフォルトのブラウザ・ウィンドウに README ファイルが表示されます。
15. 「WebSphere Application Server - First Steps (WebSphere Application Server - 最初のステップ)」ダイアログ・ボックスがオープンします。この GUI を使って、インフォセンター内の製品情報へのアクセス、管理サーバーの始動、管理コンソールの立ち上げ、またはアプリケーション・アセンブリー・ツールの立ち上げを行うことができます。WebSphere を使用するには、先に Web サーバーを開始してから (おそらく) 構成する必要があるため、ひとまずこのダイアログをクローズします。後で「First Steps (最初のステップ)」GUI を立ち上げるには、`/opt/WebSphere/AppServer/bin` ディレクトリーに置かれている `firststeps.sh` スクリプトを実行します。
16. 以下を入力して、CD を取り外します。

```
cd /
umount CDROM_dir
```

*CDROM\_dir* は CD をマウントする際に指定したディレクトリーです。

17. 「WebSphere Application Server, Advanced Edition」の CD を取り出します。
18. 以下のコマンドを実行して、IBM HTTP Server を再始動します。

```
/opt/IBMHTTPD/bin/apachectl restart
```
19. ブラウザーを開始してから、ローカル・マシンの名前を URL で入力します。IBM HTTP Server の Web ページが表示されたら、サーバーのインストールと構成は正しく完了しているということです。

---

## インストール内容のテスト

この項では、WebSphere Application Server システムのインストールと構成をテストする方法について説明します。以下の解説では、サポートされている Web サーバー、データベース、および WebSphere Application Server コンポーネントをインストール済みであることを前提としています。

以下のステップを実行し、WebSphere Application Server のインストール内容をテストします。

1. 必ず、スーパーユーザー (root) 特権でマシンにログインしてください。
2. 次のような startupServer スクリプトを実行して WebSphere 管理サーバーを開始します。

```
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./startupServer.sh &
```

3. /opt/WebSphere/AppServer/logs ディレクトリー内に置かれている tracefile という名前のファイルを調べて、管理サーバーの始動が正常に完了したことを確認します。サーバーの始動が正常に完了していれば、メッセージ「Server\_adminServer open for e-business (e-business 用の Server\_adminServer がオープンします)」がそのファイルに示されます。
4. 次のような adminclient スクリプトを実行して、管理コンソールを始動します。

```
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./adminclient.sh &
```

5. メッセージ「Console Ready (コンソールは作動可能)」が表示されたら、次のようなステップを行ってアプリケーション・サーバーを管理します。
  - a. 管理コンソールがオープンすると、ツリー・ビューが表示されます。  
「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」エントリーの横の正符号 (+) をクリックし、ビューを展開します。
  - b. 「**Nodes (ノード)**」エントリーを展開します。
  - c. ご使用のホスト・マシンの名前を確認してから、エントリーのビューを展開します。
  - d. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」エントリーのビューを拡張表示します。
  - e. 「**Default Server (デフォルト・サーバー)**」エントリーを選択してから、ツールバー上にある「**Start (始動)**」アイコンをクリックします。通知ウィンドウがオープンし、サーバーは始動済みであることが知らされます。「**OK**」をクリックして通知ウィンドウをクローズします。

WebSphere Application Server AdminServer が、停止されて以後停止したままである場合や、実行されていた後で再始動された場合、このサーバーを再始動するとデフォルト・サーバーは直前の状態に戻ります。

6. Web サーバーが実行中であることを確認してください。Web サーバーが実行されていないならば、始動してください。

7. ブラウザーを始動してから、デフォルトでインストールされているサンプル・サーブレットである次のようなスヌープ・サーブレットの URL を入力します。

`http://machine_name/servlet/snoop`

`/servlet/snoop` に関する解説が表示されます。

**注:** デフォルト・サーバーは、テストの目的でのみ使用されます。テストが終了したら、これを停止または除去することができます。実動システムでこれを実行するとサイトのセキュリティが低下する可能性がありますから、実動システムでは決して実行しないでください。

---

## 次のステップ

WebSphere Application Server 4.0.2 のインストールが完了したので、次に 31 ページの『第 5 章 WebSphere Commerce のインストール』のステップに従って WebSphere Commerce をインストールすることができます。



---

## 第 5 章 WebSphere Commerce のインストール

この章では、WebSphere Commerce のインストール方法について説明します。この章に示されている手順を完了するには、WebSphere Commerce Disk 1 CD と WebSphere Commerce Disk 2 CD が必要です。

WebSphere Commerce をインストールする前に、Web サーバー、データベース、Sun JDK 1.3.1.01、および WebSphere Application Server がインストール済みであることを確認してください。

---

### インストール手順

WebSphere Commerce をインストールするには、次のようにします。

1. ユーザー ID `root` でログオンします。
2. 必要であれば、WebSphere Commerce Disk 1 CD をマウントします。
3. `root` のユーザー ID で、次のようなコマンドを入力して管理ツールを始動します。  
`/bin/admintool&`
4. 「**Browse (ブラウズ)**」プルダウン・メニューで、「**Software (ソフトウェア)**」を選択します。「Admintool: Software (Admintool: ソフトウェア)」ウィンドウが表示されます。
5. 「**Edit (編集)**」プルダウン・メニューで「**Add (追加)**」を選択します。「Admintool: Set Source Media (Admintool: ソース・メディアの設定)」ウィンドウがオープンします。
6. Volume Manager がインストールされている場合、「**Software Location (ソフトウェア・ロケーション)**」フィールドの「**CD with Volume Management (ボリューム管理を装備した CD)**」を選択します。次に「**CD Path (CD パス)**」フィールドに、`/cdrom_dir/WebSphereCommerce` と入力します。`cdrom_dir` は、CD-ROM ドライバーのマウント・ポイントです。「**OK**」をクリックします。
7. Volume Manager がインストールされていない場合、「**Software Location (ソフトウェア・ロケーション)**」フィールドの「**CD without Volume Management (ボリューム管理を装備していない CD)**」を選択します。次に「**Mount Point (マウント・ポイント)**」フィールドに、`/cdrom_dir/WebSphereCommerce` と入力します。`cdrom_dir` は、CD-ROM ドライバーのマウント・ポイントです。「**OK**」をクリックします。
8. パッケージ・リストで以下を選択します。
  - WebSphere Commerce - runtime

注: WebSphere Commerce は自動的に /opt/WebSphere/CommerceServer にインストールされますが、そのディレクトリー内でしかサポートされません。

9. 「**Add (追加)**」をクリックします。「Admintool: Add Software (Admintool: ソフトウェアの追加)」ウィンドウがオープンし、インストールしようとしているパッケージのスクロール・リストが表示されます。
10. 各パッケージのインストールを先に進めてよいかどうかを尋ねられたら、各プロンプトに対して `y` と返答します。
11. すべてのパッケージのインストールが完了したら、**Enter** キーを押してすべての Admintool ウィンドウをクローズします。

---

## WebSphere Commerce ドキュメンテーションの入手方法

WebSphere Commerce ドキュメンテーションをインストールするには、以下のようになります。

1. ユーザー ID `root` でログオンします。
2. 必要であれば、WebSphere Commerce Disk 1 CD をマウントします。
3. `tar` でアーカイブされ圧縮されたドキュメンテーション・パッケージを CD からシステムにコピーして、`tar` ファイルを解凍・展開します。以下のようになります。

### 重要:

この `tar` ファイルをコピーして解凍・展開するには、約 1.2 GB の一時スペースが必要です。ドキュメンテーションのインストールが終わったら、これらのファイルを削除できます。この作業を始める前に、十分なスペースが存在することを確認してください。

```
cd cdrom_dir/WebSphereCommerce
cp wdocs.tar.Z /tmp
cd /tmp
uncompress wdocs.tar.Z
tar -xvf wdocs.tar
```

ここで、`/tmp` はシステム上の任意のディレクトリーで、少なくとも 1.2 GB のスペースが必要です。

4. `root` のユーザー ID で、次のようなコマンドを入力して管理ツールを始動します。  
`/bin/admintool&`
5. 「**Browse (ブラウズ)**」プルダウン・メニューで、「**Software (ソフトウェア)**」を選択します。「Admintool: Software (Admintool: ソフトウェア)」ウィンドウが表示されます。
6. 「**Edit (編集)**」プルダウン・メニューで「**Add (追加)**」を選択します。「Admintool: Set Source Media (Admintool: ソース・メディアの設定)」ウィンドウがオープンします。

7. 「ソフトウェア・ロケーション」フィールドの「**Hard Disk (ハード・ディスク)**」を選択します。「ディレクトリー」フィールドに、`/tmp` と入力します。「**OK**」をクリックします。
8. 以下のパッケージを選択します。
  - WebSphere Commerce - docs
9. 「**Add (追加)**」をクリックします。「Admintool: Add Software (Admintool: ソフトウェアの追加)」ウィンドウがオープンし、インストールしようとしているパッケージのスクロール・リストが表示されます。
10. 各パッケージのインストールを先に進めてよいかどうかを尋ねられたら、各プロンプトに対して `y` と返答します。
11. すべてのパッケージのインストールが完了したら、**Enter** キーを押してすべての Admintool ウィンドウをクローズします。
12. WebSphere Commerce Disk 1 CD を取り出します。

---

## DB2、WebSphere Application Server、および Sun JDK のバージョン・アップグレード

DB2、WebSphere Application Server、および Sun JDK のインストールが完了した後は、ソフトウェア・レベルをアップグレードして、WebSphere Commerce の要件を満たすようにしなければなりません。そうするには、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server が停止中で、Web サーバーに関連したすべてのプロセスも停止中であることを確認します。
2. DB2 サービスが停止中であることを確認します。
3. 必要であれば、WebSphere Commerce Disk 2 CD をマウントします。その場合、次のように入力します。

```
mount CDRom_dir
```

`CDROM_dir` は CD のマウント先に指定しようとしているディレクトリーです。

4. `/opt/WebSphere/CommerceServer/bin` に移動します。
5. `./wc54efixunix.sh` と入力します。
6. プロンプトが表示されたら、CD ドライブの場所を入力します。
7. プロンプトが表示されたら、WebSphere Application Server ホーム・ディレクトリーを入力します (デフォルトは `/opt/WebSphere/AppServer`)。
8. これ以降も一連のプロンプトに応じて入力し、アップデートを完了します。なお、eFix をインストールするかどうか尋ねられたら、必ず「はい」を選択してください。

---

## 次のステップ

以上で WebSphere Commerce のインストールは完了しました。次に 35 ページの『第 6 章 IBM Payment Manager 3.1.2 のインストール』の説明に従って、Payment Manager をインストールすることができます。



---

## 第 6 章 IBM Payment Manager 3.1.2 のインストール

この章では、ローカル WebSphere Commerce マシン上に Payment Manager をインストールして構成する方法について説明します。この章のステップを実行するには、IBM Payment Manager 3.1.2 CD が必要です。

Payment Manager の構成に関するその他の詳細は、以下を参照してください。

- Payment Manager CD 上の *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* インストール・ガイド バージョン 3.1。
- Payment Manager CD 上の *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* 管理者ガイド バージョン 3.1。
- WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプ。 WebSphere Commerce のインストールが完了したら、Payment Manager の構成に必要なすべての情報を見つけ出して WebSphere Commerce ストアに取りかかることができます。

---

### インストールの前提条件

1. 最新の README ファイル `readme.framework.html` をお読みください。これには、Payment Manager の Web サイト <http://www.ibm.com/software/websphere/paymgr/support/index.html> および Payment Manager CD-ROM 上のドキュメンテーション・リンクからアクセスします。
2. 以下のように、データベース・インスタンス所有者に変更して、DB2 を開始します。

```
su - db2inst1
db2start
```

3. 以下のようにして、Payment Manager 用データベース (たとえば `payman`) を作成します。

```
db2 create db payman
```

Payment Manager のインストール中は、このデータベースが実行中でなければなりません。DB2 コマンド・ウィンドウに以下を入力し、このデータベースのアプリケーション・ヒープ・サイズが少なくとも 256 であることを確認します。

```
db2 update db cfg for payman using APPLHEAPSZ 256
```

4. データベースの作成が完了したら、以下のようにして DB2 と WebSphere Application Server を開始します。
  - a. 以下のように入力して、DB2 サーバーを停止および再始動します。

```
su - db2inst1
db2stop
db2start
exit
```

- b. 以下のようにして、WebSphere Application Server を開始します。

```
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./startupServer.sh
```

5. インストール中は必ず WebSphere Application Server 管理サーバーを実行中にしておいてください。さらに、別の目的をもつ WebSphere Payment Manager という名前のアプリケーション・サーバーが WebSphere Application Server 内で構成されていないことを確認してください。構成されていれば、名前を変更するかまたは削除してください。

---

## Payment Manager のインストール

IBM Payment Manager 3.1.2 をインストールするには、次のようにします。

1. ユーザー ID root でログインします。
2. 必要であれば、IBM Payment Manager 3.1.2 CD をマウントします。その場合、次のように入力します。

```
mount CDROM_dir
```

*CDROM\_dir* は CD のマウント先に指定しようとしているディレクトリーです。

3. 次のような Install コマンドを実行し、Payment Manager インストール・プログラムを立ち上げます。  
./Install
4. 「Payment Manager Install (Payment Manager のインストール)」画面で、「次へ」をクリックします。
5. ライセンス契約を読み、ご使用条件を納得したら了承します。
6. デフォルトの宛先ディレクトリーを受け入れるか、あるいは他のディレクトリーを入力します。
7. WebSphere Application Server がどの Sun JDK を使用しているかをインストール・プログラムが判断できないと、Sun JDK ディレクトリーの位置を入力するように求められます。表示されている位置が正しければ、「次へ」をクリックしてください。正しくないなら、正しい位置を入力してから「次へ」をクリックしてください。
8. Payment Manager とともに使用するデータベースを選択します (IBM ユニバーサル・データベース)。
9. JDBC™ 情報を入力します。DB2 を使用すると、JDBC ドライバー情報は自動的にインストール・プログラムによって検索されます。インストール・プログラムによ

って JDBC のドライバー情報が検出されたら、該当するフィールドに DB2 インスタンス名 (デフォルトは db2inst1) を入力してから、「次へ」をクリックしてください。

10. 「Payment Manager Database Access Information (Payment Manager データベース・アクセス情報)」画面で、次のような該当する値を入力します。
  - データベース所有者のユーザー ID (デフォルトは db2inst1)
  - 管理者のユーザー ID (デフォルトは db2inst1)
  - 管理者のパスワード
  - Payment Manager のデータベース名 (たとえば payman)「次へ」をクリックします。
11. 「Payment Manager WebSphere Configuration Information (Payment Manager WebSphere 構成情報)」のページで、デフォルト・ノード名をそのまま受け入れるか (ただしマシンに対して正しいものである場合)、あるいは必要に応じてノード名を入力します。ノード名は、WebSphere Application Server 管理コンソールに表示される使用するマシンのノード名と同じでなければなりません。「次へ」をクリックします。
12. 「インストール要約」画面で、選択されたパラメーターを検討します。「次へ」をクリックしてインストールを続行します。

**注:** インストール中に、進行状況表示バーが停止したように見えることがあります。継続中のインストールを停止しないでください。システム・リソースの状態に応じて、進行状況表示バーが再び動くようになります。

13. README ファイルを読みたいかどうかを尋ねられます。チェック・ボックスを選択してから、「次へ」をクリックします。
14. 以下を入力して、CD を取り外します。

```
cd /  
umount CDROM_dir
```

*CDROM\_dir* は CD をマウントする際に指定したディレクトリーです。

15. IBM Payment Manager 3.1.2 CD を取り出します。

CustomOffline と OfflineCard が自動的に Payment Manager とともにインストールされます。Payment Manager は WebSphere Commerce と同じマシンにインストールされるため、OfflineCard は自動的に構成されます。これらのカセットをテストに使用できますが、オンライン・トランザクションを処理することはできません。

---

## Payment Manager 管理者の役割

Payment Manager をインストールする時点で、WebSphere Commerce 管理者 ID wcsadmin に Payment Manager 管理者役割が自動的に割り当てられます。Payment Manager 管理者の役割を使えば、ID で Payment Manager を制御および管理することができます。

### 注:

1. ログオン・ユーザー ID wcsadmin は削除したり名前を変更したりしないでください。また、wcsadmin に事前に割り当てられている Payment Manager の役割は変更しないようにしてください。もし変更すると、Payment Manager の整合性に関連した WebSphere Commerce の機能の一部が動作しなくなります。
2. WebSphere Commerce の管理者に Payment Manager の役割を割り当てた場合、後でその管理者のログオン・ユーザー ID を削除したり名前を変更したりするときには、ID を削除または名前変更の前に、まずその管理者に割り当てた Payment Manager の役割を削除してください。

### 重要

Payment Manager は、他の 2 つの管理 ID に Payment Manager 管理者役割を事前に割り当てています。

- ncadmin
- admin

ユーザーが不用意にこの Payment Manager Administrator 役割を取得しないようにするには、以下のようにすることができます。

- WebSphere Commerce 管理コンソールを使用して、WebSphere Commerce の中で上記の管理 ID を作成します。
- Payment Manager のユーザー・インターフェースで、「**Users (ユーザー)**」を選択します。次に、これら 2 つの ID から Payment Manager Administrator 役割を除去します。

---

## 次のステップ

以上で IBM Payment Manager 3.1.2 のインストールは完了しました。次に 39 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce インスタンスの構成』の説明に従って、WebSphere Commerce インスタンスを構成することができます。

---

## 第 3 部 WebSphere Commerce インスタンスの構成

必須のソフトウェアのインストールと、使用する予定のオプションのソフトウェア・パッケージのインストールが完了したら、 WebSphere Commerce インスタンスを作成できます。

第 3 部は、次のような章で構成されています。

- 41 ページの『第 7 章 構成前のステップ』
- 43 ページの『第 8 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成』
- 53 ページの『第 9 章 構成後のステップ』



---

## 第 7 章 構成前のステップ

この章では、WebSphere Commerce インスタンスの構成を始める前に完了しておく必要のある一連の作業について説明します。以下のリストの中から、該当するセクションを完了してください。

- `wcpostinstall.sh` スクリプトを実行する
- WebSphere Application Server の開始 (すべてのユーザーに関して)

---

### インストール後スクリプトの実行

WebSphere Commerce および必要なコンポーネントをすべてインストールした後、インストール後スクリプトを実行する必要があります。これを実行すると、非ルート・ユーザーとして WebSphere Application Server、Payment Manager、および WebSphere Commerce を実行できるユーザー ID `wasuser` が作成されます。スクリプトを実行するには、以下のステップを完了してください。

1. WebSphere Application Server が停止中で、Web サーバーに関連したすべてのプロセスも停止中であることを確認します。
2. DB2 サービスが停止中であることを確認します。
3. 必要であれば、WebSphere Commerce Disk 2 CD をマウントします。その場合、次のように入力します。

```
mount CDROM_dir
```

*CDROM\_dir* は CD のマウント先に指定しようとしているディレクトリーです。

4. `/opt/WebSphere/CommerceServer/bin` に移動します。

```
cd /opt/WebSphere/CommerceServer/bin
```
5. `./wcpostinstall.sh` と入力します。
6. 画面のプロンプトに従い、非ルート・ユーザーとして実行するかどうかを尋ねられたら、必ず「はい」を選択してください。

注:

- a. `wcpostinstall.sh` が表示するデフォルトのグループ名とユーザー名、およびデフォルト・ポート番号を使用することを強く推奨します。別の名前やポート番号を選択する場合には、この資料全体にわたって、それらの名前で置き換える必要があります。
- b. グループ名とユーザー名には、大文字は使用できません。

このスクリプトを実行した後は、WebSphere Application Server、Payment Manager、および WebSphere Commerce のすべてのタスクを wasuser として実行できるようになります。

---

## WebSphere Application Server の始動

WebSphere Application Server を開始します。41 ページの『インストール後スクリプトの実行』で作成したユーザー ID wasuser としてログインし、以下のことを確認してから、以下のように入力します。

1. データベース・サーバーが実行中であることを確認します。
2. Web サーバーが実行中であることを確認します。
3. 端末ウィンドウで、以下のコマンドを入力します。

```
su - wasuser
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./startupServer.sh &
```

---

## 次のステップ

この章に示されている必要なステップがすべて完了したら、以下の章のステップを行うことによって、構成マネージャーを使ってインスタンスを作成できます。

- 43 ページの『第 8 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成』



---

## 第 8 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成

この章では、構成マネージャーにより基本的なインスタンスを作成する方法について説明します。1 ページの『第 1 部 WebSphere Commerce のインストールの準備』と 15 ページの『第 2 部 WebSphere Commerce のインストール』で説明されている手順がまだ完了していない場合、インスタンスを作成することはできません。

**注:** 1 つの WebSphere Commerce Server は、コマース・データベース、EJB コンテナ、および 1 つ以上のストアへのクライアント要求を処理するいくつかのサブレット・エンジンで構成されています。WebSphere Commerce 構成マネージャーの中で、各 WebSphere Commerce インスタンスは、インスタンス・ツリーの中の別個のルート・カテゴリになっています。WebSphere Application Server のトポロジー・ビューでは、WebSphere Commerce インスタンスは、別個の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーとしてノード・エントリーの下に表示されます。

拡張構成について、またこの章では説明されていないフィールドについては、*WebSphere Commerce インストール・ガイド* をご覧ください。

---

### 章チェックリスト

- すべてのユーザー (db2inst1、root、wasuser を含む) が Korn シェルを実行していることを確認してください。
- DB2 サーバーが実行中であることを確認してください。
- IBM HTTP Server が実行中であることを確認してください。
- システムで使用しているロケールがサポートされていることを確認してください (5 ページの『WebSphere Commerce で使用されるロケール』を参照してください)。

---

### 構成マネージャーの起動

構成マネージャーを開始するには、以下のようにします。

1. 端末ウィンドウをオープンします。
2. 41 ページの『インストール後スクリプトの実行』で作成した WebSphere Application Server ユーザーを必ず使用して、以下のようにログオンします。  
`su - wasuser`
3. 表示をエクスポートします (たとえ WebSphere Commerce マシンで作業している場合でも)。以下のように入力します。

```
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
```

ここで、 *fully\_qualified\_host\_name* は、構成マネージャーへのアクセスに使用するマシンのホスト名です。システムが `Can not open DISPLAY=` と応答した場合は、WebSphere Commerce マシン上で以下のコマンドを実行します。

```
xhost +host_name
```

ここで *host\_name* は、構成マネージャーへのアクセス元となるマシンの完全修飾ホスト名です。

4. 以下のコマンドを発行します。

```
cd /opt/WebSphere/CommerceServer/bin
./config_server.sh
```

**注:**

- a. `config_server.sh` コマンドを入力した端末ウィンドウをクローズしないでください。クローズした場合、構成マネージャー・サーバーが停止します。
  - b. 構成マネージャー・サーバーはバックグラウンド・プロセスとして実行しないでください。セキュリティ・リスクが発生する可能性があります。
5. 以下のメッセージが表示されるのを待ちます。Registry created. CMServer bound in registry.
  6. 別の端末ウィンドウをオープンします。
  7. 41 ページの『インストール後スクリプトの実行』で作成した WebSphere Application Server ユーザーを必ず使用して、以下のようにログオンします。

```
su - wasuser
```
  8. 表示をエクスポートします (たとえ WebSphere Commerce マシンで作業している場合でも)。以下のように入力します。

```
export DISPLAY=fully_qualified_hostname:0.0
```
  9. 以下のコマンドを発行します。

```
cd /opt/WebSphere/CommerceServer/bin
./config_client.sh &
```
  10. ウィンドウが表示され、構成マネージャーのユーザー ID とパスワードを入力するよう求められます。構成マネージャーのデフォルト・ユーザー ID は `webadmin`、デフォルト・パスワードは `webibm` です。
  11. 初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。

---

## インスタンス作成ウィザード

インスタンスを作成するには、WebSphere Commerce 構成マネージャーで以下のようにします。

1. ホスト名を展開します。
2. 「インスタンス・リスト」をマウスの右ボタンでクリックします。
3. 表示されるポップアップ・メニューで、「インスタンスの作成」を選択します。

4. インスタンス作成ウィザードが表示されます。以下の各パネルのフィールドに入力してください。インスタンスを作成する場合、アスタリスク (\*\*) を付けたフィールドには必ず入力しなければなりません。

## 「インスタンス」

### 「インスタンス名」

インスタンスのために使用する名前。デフォルトの名前は `demo` です。

### 「インスタンスのルート・パス」

WebSphere Commerce インスタンスに関連するすべてのファイルを保存するパスを入力します。デフォルトのパスは、  
`/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name` です。

### \*\*「マーチャント・キー」\*\*

これは、構成マネージャーが暗号鍵として使用する 16 桁の 16 進数です。マーチャント・キーには、1 個以上の英字 (a ~ f)、および 1 個以上の数字 (0 ~ 9) が含まれていなければならない。英字は小文字でなければなりません。また、1 行の中に同じ文字を 5 回以上入力することはできません。ストア作成後に、この鍵を変更してはなりません。特に実動サーバーの場合、サイト保護に十分な鍵を入力するようにしてください。

### 「PDI 暗号化」

このチェック・ボックスは、ORDPAYINFO と ORDPAYMTHD のテーブルに指定された情報を暗号化することを指定するのに使います。

### 「PVC ヘッダー使用可能」

将来のリリースのために予約済み。

### 「URL マッピング・ファイル」

URL マッピング用に使用するファイルのパスを入力するか、またはデフォルト・ファイル `/opt/WebSphere/CommerceServer/xml/mapping/urlmapper.xml` をそのまま使用してください。

## データベース

### \*\*「データベース管理者名」\*\*

データベース管理者のユーザー名を入力します。デフォルトは `db2inst1` です。

### \*\*「データベース管理者パスワード」\*\*

データベース管理者のユーザー ID のパスワードを入力します。デフォルトは `db2inst1` です。

### 「Database Administrator home directory (データベース管理者のホーム・ディレクトリー)」

データベース管理者のホーム・ディレクトリーです。デフォルトは `/export/home/db2inst1`。

### 「データベース名」

データベースに割り当てる名前として、デフォルトを受け入れるか、または入力します。この名前は、長さが 8 文字以下でなければなりません。インスタンス作成ウィザードを使ってインスタンスを作成する場合、WebSphere Application Server リポジトリのために過去に作成した WebSphere Application Server データベースは指定しないでください。むしろ、ウィザードの「データベース」ページの「データベース名」フィールドには、WebSphere Commerce ストアのための固有のデータベース名を指定してください (たとえば MALL)。

### 「データベース・タイプ」

DB2 Universal Database を選択します。

### \*\*「データベース・ユーザー名」\*\*

データベース管理者以外にデータベースの DB2 ユーザーを作成した場合は、そのユーザー ID をこのフィールドに入力することができます。管理者以外に DB2 ユーザーがない場合は、管理者のユーザー名を入力してください。

### \*\*「データベース・ユーザー・パスワード」\*\*

これは、上記のデータベース・ユーザー名に関連するパスワードです。管理者以外に DB2 ユーザーがない場合は、管理者のパスワードを入力してください。

**「Database User home directory (データベース・ユーザーのホーム・ディレクトリー)」** データベース・ユーザーのホーム・ディレクトリーです。デフォルトは /export/home/db2inst1。

**「Run Database Performance Wizard (データベース・パフォーマンス・ウィザードの実行)」**

DB2 データベース最適化を実行するため、「Run Database Performance Wizard (データベース・パフォーマンス・ウィザードの実行)」チェック・ボックスを選択します。

### 「ステー징・サーバーの使用」

「ステー징・サーバーの使用」を選択すると、構成マネージャーは、このデータベースをステー징・サーバーで使用するものとして定義します。ステー징・サーバーについては、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプをご覧ください。

### 「アクティブ・データベースとして設定」

インスタンスでこのデータベースを使用する場合、このオプションを選択します。

### 「リモート・データベースの使用」

このチェック・ボックスは、オフにしてください。リモート・データベース・サーバーを使用したい場合は、WebSphere Commerce インストール・ガイドの説明に従う必要があります。

## 「言語」

構成マネージャーの「言語」パネルは、必要なすべての言語をサポートするようにデータベースを構成する場合に使用します。少なくとも 1 つの言語を選択する必要があります。データベースに言語サポートを追加するには、以下のようになります。

1. 「使用可能な言語」ウィンドウから、該当する言語の XML ファイルを選択します。XML ファイルは、`wcs.bootstrap_multi_xx_XX.xml` という形式です (xx\_XX は選択する言語の 4 文字のロケール・コード)。
2. 「選択した言語」ウィンドウを指す矢印をクリックします。選択した言語が「選択した言語」ウィンドウに表示されます。
3. ステップ 1 と 2 を、サポートの必要な言語ごとに実行します。

## 「Web サーバー」

### 「リモート Web サーバーの使用」

このチェック・ボックスはオフにしてください。リモート Web サーバーを使用したい場合は、*WebSphere Commerce* インストール・ガイド の説明に従う必要があります。

### 「ホスト名」

デフォルトをそのまま受け入れるか、または WebSphere Commerce マシンの完全修飾 ホスト名を入力します (完全修飾名は `host_name.domain.com` という形式です)。デフォルトは、システムのホスト名です。ホスト名フィールドには、`www` 接頭部を入力しないでください。デフォルト・ホスト名を受け入れる場合は、そのデフォルト・ホスト名が完全修飾名であることを確認してください。

### 「Web サーバー・タイプ」

IBM HTTP Server を選択します。

### 「1 次文書ルート」

Web サーバーの文書ルートのパスとして、デフォルトをそのまま受け入れるか、または入力します。

### 「サーバー・ポート」

WebSphere Commerce Server で使用するポート番号を入力します。デフォルト値は 80 です。

### 「認証モード」

この WebSphere Commerce インスタンスで使用する認証モードを選択します。選択肢は以下のとおりです。

#### 「基本」

認証は、カスタム証明書を使って実行されます。

#### 「X.509」

認証は、X.509 証明書規格を使って実行されます。

## WebSphere

### 「データ・ソース名」

WebSphere Commerce が使用するデータベースにアクセスするために使う接続プールをセットアップするために使います。データ・ソース名を入力するか、またはデフォルトをそのまま受け入れてください。

### 「ポート番号」

41 ページの『インストール後スクリプトの実行』で指定したように、WebSphere Application Server が listen するポート・アドレスを入力します。デフォルトは 2222 です。

### 「JDBC ドライバーの場所」

システム上の db2java.zip ファイルの位置を入力するか、またはデフォルト値をそのまま受け入れます。

### 「ストア Web アプリケーション」

WebSphere Application Server において WebSphere Commerce Server の下にデフォルトのストア Web アプリケーションを構成する場合、これを選択します。インスタンスが作成された後、このチェック・ボックスは使用不可になります。

### 「ツール Web アプリケーション」

WebSphere Application Server において WebSphere Commerce Server の下にデフォルトのツール Web アプリケーションを構成する場合、これを選択します。インスタンスが作成された後、このチェック・ボックスは使用不可になります。

### 「ツール・ポート番号」

WebSphere Commerce 管理ツールへのアクセスに使用するポート番号。デフォルト・ポート番号は 8000 です。

### 「WebSphere Catalog Manager」

このチェック・ボックスを選択すると、WebSphere Catalog Manager WebEditor がインストールされます。これは `http://host_name :8000/wcm/webeditor` でアクセスできます。デフォルトでは、これがインストールされます。

## Payment Manager

### 「ホスト名」

Payment Manager マシンの完全修飾ホスト名を入力します。デフォルトは、WebSphere Commerce のホスト名です。

### 「プロファイル・パス」

WebSphere Commerce Payment Manager Cashier の標準のプロファイルの保存

先ディレクトリーの絶対パス名。デフォルト値は  
`/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/xml/payment` です。

#### 「非 SSL Payment Manager クライアントの使用」

WebSphere Commerce が Payment Manager サーバーと通信するために非 SSL Payment Manager クライアントを使用する場合は、このチェック・ボックスをオンにします。それにより、WebSphere Commerce Server は、SSL を使わずに Payment Manager と通信できるようになります。

#### 「Web サーバー・ポート」

Payment Manager が使用する Web サーバーの TCP ポートを入力します。

「非 SSL Payment Manager クライアントの使用」を選択した場合、このフィールドのデフォルト値は 80 (非セキュア・ポート) です。そのチェック・ボックスを選択しなかった場合、このフィールドのデフォルト値は 443 (SSL ポート) です。

#### 「Socks サーバーの使用」

WebSphere Commerce が Payment Manager と通信するために Socks サーバーが必要な場合、このチェック・ボックスを選択します。

#### 「Socks ホスト名」

このフィールドは、「Socks サーバーの使用」チェック・ボックスを選択した場合に使用可能になります。Socks サーバーの完全修飾ホスト名を入力してください。

#### 「Socks ポート番号」

このフィールドは、「Socks サーバーの使用」チェック・ボックスを選択した場合に使用可能になります。Socks サーバーが使用するポート番号を入力してください。

## 「ログ・システム」

#### 「トレース・ファイルの場所」

これは、デバッグ情報の収集先となるファイルです。その中には、英語のデバッグ・メッセージが入ります。デフォルト場所は  
`/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/logs/ecmsg.log` です。

注: 「トレース・ファイルの場所」が「メッセージ・ファイルの場所」と同じなら、それらのファイルの内容はマージされます。

#### 「トレース・ファイル・サイズ」

これは、トレース・ファイルの最大サイズ (MB) です。デフォルトのサイズは 40 MB です。トレース・ファイルがこのサイズに達すると、別のトレース・ファイルが作成されます。

#### 「メッセージ・ファイルの場所」

これは、WebSphere Commerce システムの状態を記述するメッセージの収集先ファイルです。メッセージは、ロケールに依存します。デフォルト場所は `/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/logs/ecmsg.log` です。

注: 「トレース・ファイルの場所」が「メッセージ・ファイルの場所」と同じなら、それらのファイルの内容はマージされます。

#### 「メッセージ・ファイル・サイズ」

これは、メッセージ・ファイルの最大サイズ (MB) です。デフォルトのサイズは 40 MB です。メッセージ・ファイルがこのサイズに達すると、別のメッセージ・ファイルが作成されます。

#### 「アクティビティ・ログ・キャッシュ・サイズ」

アクティビティ・ログのキャッシュの最大サイズを入力します。デフォルトのサイズは 20 MB です。

#### 「通知使用可能」

エラー・レベル・メッセージが通知されるようにする場合には、このチェック・ボックスを選択します。それらのメッセージを受け取るには、WebSphere Commerce 管理コンソールでも通知情報を変更する必要があります。

## メッセージング

#### 「ユーザー・テンプレート・ファイル」

これは、新しいインバウンド XML メッセージがシステムでサポートされるようにするための XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルには、サポートする新しい XML メッセージごとに 1 つのアウトラインを追加する必要があります。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの `user_template.xml` を使用することをお勧めします。

#### 「インバウンド・メッセージ DTD パス」

これは、インバウンド XML メッセージのすべての DTD ファイルの保存先となるパスです。デフォルトは `/opt/WebSphere/CommerceServer/xml/messaging` です。

#### 「WebController ユーザー ID」

これは、すべての WebSphere Commerce MQSeries<sup>®</sup> アダプター・インバウンド・メッセージを実行するために WebSphere Commerce が使用する ID です。この ID は、サイト管理者権限が付与されたものでなければなりません。デフォルトは `wcsadmin` です。ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルを更新するための権限は、許可された人だけに付与されるようにしてください。というのは、この ID の使用により WebSphere Commerce コマンドを実行するためにインバウンド XML メッセージをマッピングできるからです。



#### 「システム・テンプレート・ファイル」

これは、WebSphere Commerce MQSeries アダプターによってサポートされる、すべてのインバウンド XML メッセージのアウトラインを含む XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルは、メッセージを該当する WebSphere Commerce コントローラー・コマンドにマッピングし、メッセージ内の各フィールドをそのコマンドの該当するパラメーターにマッピングすることにより、各メッセージのデータ・フィールドを定義します。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの `sys_template.xml` を使用することをお勧めします。

#### 「テンプレート・パス」

これは、ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルの保存先のパスです。デフォルトは `/opt/WebSphere/CommerceServer/xml/messaging` です。

#### 「インバウンド・メッセージ DTD ファイル」

これは、インバウンド XML メッセージのための DTD および組み込みファイルのリストです。新しいインバウンド XML メッセージを追加する場合は、それをこのフィールドに追加する必要があります。

## オークション

#### 「使用可能」

オークションを使用可能にする場合、「使用可能」チェック・ボックスを選択します。

#### 「SMTP サーバー」

E メール・メッセージを受け取るのに使う SMTP サーバーを定義します。

#### 「応答 E メール」

送信側の E メール情報。

すべてのパネルに必要な情報を入力したなら、「終了」ボタンが使用可能になります。「終了」をクリックすると、WebSphere Commerce インスタンスが作成されます。

システムの数によって、インスタンスの作成に数分～数時間かかることがあります。インスタンス作成が開始されると進行状況表示バーが表示されます。プロセスが完了すると、そのことが進行状況表示バーに示されます。インスタンスが作成されると WebSphere Commerce は、そのインスタンスに関連する WebSphere Commerce Server の開始を試行します。完了したら、「OK」をクリックして、インスタンス作成ウィザードをクローズしてください。

---

## インスタンス作成の検証

インスタンスが正しく作成されたことを確認するには、以下のファイルを調べます。

- /opt/WebSphere/CommerceServer/instances/*instance\_name*/xml/*instance\_name.xml*。このファイルには、作成される WebSphere Commerce インスタンスについての構成情報がすべて入ります。
- /opt/WebSphere/CommerceServer/instances/*instance\_name*/logs/createdb.log。このファイルには、 WebSphere Commerce データベース作成に関する情報が入ります。
- /opt/WebSphere/CommerceServer/instances/*instance\_name*/logs/populatedb.log。このファイルには、 WebSphere Commerce データベースにデータを入れる処理に関する情報が入ります。
- /opt/WebSphere/CommerceServer/instances/*instance\_name*/logs/WASConfig.log。このファイルには、 WebSphere Application Server 内で WebSphere Commerce の新しいインスタンスをインストールして構成する作業に関する情報が入ります。
- /opt/WebSphere/CommerceServer/instances/*instance\_name*/logs/wcs.log。このファイルは、 WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの動作を記述するものです。このログを使用して、サーバーが正しく開始されたことを確認してください。

---

## 次のステップ

WebSphere Commerce インスタンスを構成し、開始し終わったら、 53 ページの『第 9 章 構成後のステップ』の説明に従ってインストールを完了する必要があります。

---

## 第 9 章 構成後のステップ

この章では、WebSphere Commerce の構成を完了するために行う必要のあるすべてのステップを説明します。この章で説明するタスクは以下のとおりです。

- JavaServer Pages™ ファイルのコンパイル
- テスト用に SSL を使用可能にする
- WebSphere Commerce で実行できるように Payment Manager を構成する
- Payment Manager の設定を構成する
- セキュリティー・チェッカーの実行

---

### JavaServer Pages ファイルのコンパイル

この時点で、JavaServer Pages ファイルをコンパイルすることをお勧めします。

JavaServer Pages をコンパイルすれば、WebSphere Commerce ツールのロードにかかる時間が大幅に短縮されます。JavaServer Pages (JSP) ファイルのバッチ・コンパイルを実行するには、以下のようにします。

1. wasuser に対する変更:

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
```

2. コマンド・プロンプトで、/opt/WebSphere/CommerceServer/bin に切り換えます。
3. 次のコマンドを実行します。

**注:** 実際に指定する *enterpriseApp*、*webModule*、または *nameServerHost* の名前にスペースが含まれている場合には、下記のように、名前を二重引用符で囲む必要があります。

```
./WCSJspBatchCompiler.sh -enterpriseApp "WebSphere
Commerce Enterprise Application - instance_name"
-webModule "WCS Tools" -nameServerHost "short_host_name"
-nameServerPort port_number
```

ここで、*instance\_name* は WebSphere Commerce インスタンスの名前 (デフォルトは *demo*)、*short\_host\_name* は WebSphere Commerce マシンの名前、*port\_number* は 41 ページの『インストール後スクリプトの実行』で指定したポート (デフォルトは 2222) です。

これらのコンパイルを実行すると、いくつかのエラーがログに記録されます。それらは、無視しても問題ありません。

---

## テスト用のセキュリティー鍵ファイルの作成

このセクションで作成したセキュリティー鍵ファイルには、無許可の個人によるショッパ・トランザクションの監視を防ぐ機能はありませんが、ストアを作成するためには、そうする必要があります。ストアを顧客に対して公開する前に、該当する WebSphere Commerce インストール・ガイドの説明に従ってください。

テスト用のセキュリティー鍵ファイルを作成するには、以下のようになります。

1. 以下のように入力して、ルート・ユーザーに変更します。

```
su - root
ksh
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
```

2. 70 ページの『IBM HTTP Server の開始と停止』の説明に従って、IBM HTTP Server を停止します。

3. 次のように入力して「Key Management Utility (鍵管理ユーティリティ)」を開きます。

```
iskeyman
```

4. 「IBM Key Management (IBM 鍵管理)」ウィンドウの「Key Database File (鍵データベース・ファイル)」メニューをクリックして、「New (新規)」を選択します。
5. 「IBM Key Management (IBM 鍵管理)」の「New (新規)」ウィンドウに、ファイル名 (keyfile.kdb) とファイル場所 (/opt/IBMHTTPD/ssl) を入力します。「OK」をクリックします。
6. 「Password Prompt (パスワード・プロンプト)」ウィンドウが表示されます。
7. IBM HTTP Server パスワードを入力して確認し、「Stash the password to a file (ファイルへのパスワードの stash)」を使用可能にします。「OK」をクリックします。
8. 「Create (作成)」メニューをクリックし、「New Self-signed Certificate (新規の自己署名証明書)」を選択します。
9. 表示されたウィンドウで、オプションとしてリストに載っていないすべてのフィールドに入力します。「OK」をクリックして、IBM 鍵管理ユーティリティをクローズします。
10. 70 ページの『IBM HTTP Server の開始と停止』の説明に従って、IBM HTTP Server を始動します。

---

## WebSphere Commerce で実行するための Payment Manager の構成

WebSphere Commerce で実行するために Payment Manager を構成するには、次のようにしなければなりません。

1. 以下のように、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./adminclient.sh host_name port_number
```

ここで、*host\_name* はご使用のマシンの完全修飾名、*port\_number* は WebSphere Application Server へのアクセスに使用するポート (41 ページの『インストール後スクリプトの実行』で指定したものです)。デフォルトは 2222 です。

2. 以下のようにして、別名を作成します。
  - a. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を展開します。
  - b. 「**Virtual Hosts (仮想ホスト)**」を選択します。
  - c. 右側のパネルで *default\_host* を選択します。
  - d. 「**General (一般)**」タブの「**Add (追加)**」をクリックします。
  - e. 「**Alias (別名)**」フィールドに *\*:443* と入力してから、「**Apply (適用)**」をクリックします。
3. 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
4. *node\_name* をマウスの右ボタンでクリックしてから、「**Web サーバー・プラグインの再生成**」を選択します。
5. テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
/opt/WebSphere/AppServer/config/plugin-cfg.xml
```
6. *plugin-cfg.xml* ファイルの `<Config>` の下に、以下の行を直接追加します。

```
<Property name="CacheLibrary" value="/opt/WebSphere/CommerceServer/bin/libwccache.so" />
```
7. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
8. 69 ページの『WebSphere Application Server の開始と停止』の説明に従って、WebSphere Application Server を停止します。
9. IBM HTTP Server を停止して再始動します。IBM HTTP Server を停止するには、以下のようにします。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPD/bin
./apachectl stop
```
- IBM HTTP Server を開始するには、以下のようにします。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPD/bin
./apachectl start
```
10. WebSphere Application Server を開始します。WebSphere Application Server を開始するには、以下のようにします。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./startupServer.sh
```

### 重要

Payment Manager を使用する前に、少なくとも 1 度は WebSphere Commerce 管理コンソールにログインすることをお勧めします。 WebSphere Commerce 管理コンソールにログインするには、以下に移動します。

`https://host_name :8000/adminconsole`

デフォルトの管理コンソール・ユーザー ID (wcsadmin) とデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力します。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。

---

## Payment Manager の設定を構成する

Payment Manager ユーザー・インターフェースを使用する前に、 WebSphere Commerce および Payment Manager が実行中であることを確認してください。詳しくは、71 ページの『Payment Manager の開始と停止』を参照してください。

Payment Manager を構成するには、以下のようになります。

1. `http://host_name/webapp/PaymentManager/` に移動します。
2. Payment Manager にログオンします。
3. 「**Payment Manager Settings (Payment Manager 設定)**」を選択します。
4. Payment Manager ユーザー・インターフェースの「**Payment Manager Settings (Payment Manager 設定)**」パネルでリストされているホスト名が、完全修飾ホスト名であることを確認してください。そうでない場合には、ホスト名フィールドを完全修飾ホスト名に変更しなければなりません。その後「**Update (更新)**」をクリックし、「**Disable Payment Manager (Payment Manager を使用不可にする)**」をクリックしてから、「**Enable Payment Manager (Payment Manager を使用可能にする)**」をクリックしてください。

---

## セキュリティ・チェッカーの実行

ここでは、 WebSphere Commerce のセキュリティ・チェック・ツールによってシステムのセキュリティをチェックする方法について説明します。セキュリティ・チェック・ツール (セキュリティ・チェッカー) は、システムに機密漏れがないかどうかをチェックし、削除すべきファイルを識別し、機密情報を含むファイルの許可と所有権を確認し、 IBM HTTP Server および WebSphere Application Server 内のセキュリティ・レベルをチェックします。

セキュリティー・チェック・ツールを使用するには、次のようにします。

1. 以下のように、WebSphere Commerce 管理コンソールをオープンします。

`https://host_name:8000/adminconsole`

デフォルトの管理コンソール・ユーザー ID (wcsadmin) とデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力します。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。

2. 「サイト / ストアの選択」ページから「**サイト**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
3. 管理コンソールで、「Security (セキュリティー)」メニューから「**Security Checker (セキュリティー・チェッカー)**」を選択します。
4. セキュリティー・チェッカーには、セキュリティー・チェッカーを起動する「**立ち上げ**」ボタンと、最後に実行されたセキュリティー・チェックの結果が表示されます。構成マネージャー・パラメーターが正しく構成されていれば、「No security exposures found.」というメッセージが表示されます。
5. このツールの実行が完了したら、「**OK**」をクリックします。

セキュリティー・チェッカー・ツールを実行すると、以下のログが作成されます。

- /opt/WebSphere/CommerceServer/instances/*instance\_name*/logs/sec\_check.log。このファイルには、機密漏れの可能性に関する情報が入ります。

---

## 次のステップ

WebSphere Commerce の構成を完了するために必要なステップがすべて終わったら、ストア・サービスを使って、独自のストアを作成して発行することができます。このタスクを行う方法については、59 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce によるストアの作成』を参照してください。





---

## 第 4 部 WebSphere Commerce によるストアの作成



---

## 第 10 章 サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する

この章では、WebSphere Commerce に付属のストア・アーカイブの 1 つからサンプル・ストアを作成するプロセスを示します。さらに別のストアの作成方法やストアのカスタマイズについては、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプをご覧ください。

WebSphere Commerce において、オンライン・ストアを作成するための最も速くて簡単な方法は、WebSphere Commerce に付属のサンプル・ストアの 1 つを使用し、ストア・サービスで利用できるブラウザー・ベースのツールを使用することです。サンプル・ストアは、ストア・アーカイブとして提供されています。

ストア・アーカイブは、ストアの作成に必要な資産すべて (Web 資産やデータベース資産を含む) が含まれている圧縮ファイルです。独自のストアを作成するには、サンプル・ストア・サービスの 1 つに基づいて、ストア・サービスのツールを使用して新しいストア・アーカイブを作成します。新しいストア・アーカイブはサンプル・ストア・アーカイブに基づくものなので、それはサンプル・ストア・アーカイブに含まれる資産の正確なコピーを、新しいファイル名およびディレクトリー構造で保存したものです。

この時点で、2 種類の選択肢があります。つまり、ストア・アーカイブをコマース・サーバーに対して発行することによりサンプル・ストアの 1 つに基づく機能的ストアを作成する方法と、まず新しいストア・アーカイブに変更を加えてから、それをサーバーに対して発行する方法です。

ストア・アーカイブ中のデータベース情報を変更するには、資産を直接編集するか、またはストア・サービスのツール (「ストア・プロファイル」ノートブック、「税」ノートブック、および「配送」ノートブック) を使います。

ストア・アーカイブに含まれる Web 資産 (ストア・ページ) を変更したり、新しい Web 資産を作成したりするには、WebSphere Commerce Studio のツール、またはその他の選択したツールを使用します。

ストアの作成については、*IBM WebSphere Commerce ストア開発者ガイド* をご覧ください。

サンプル・ストアのいずれかを使用してストアを作成するには、以下のようにします。

1. ストア・アーカイブを作成します。
2. ストア・アーカイブを発行します。

---

## ストア・アーカイブの作成

サンプル・ストアのいずれかを使用してストア・アーカイブを作成するには、以下のようになります。

1. 以下が実行中であることを確認してください。
  - DB2
  - IBM HTTP Administration
  - IBM HTTP Server
  - WebSphere Application Server
  - WebSphere Application Server 管理コンソールで、以下のものが開始済みであることを確認します。
    - Websphere Commerce Server - *instance\_name*
    - WebSphere Payment Manager
2. 次のようにして Payment Manager を開始します。
  - a. コマンド・ウィンドウを開き、IBM Payment Manager がインストールされているディレクトリーに移動します。
  - b. 以下のコマンドを入力します。

```
./IBMPayServer
```

Payment Manager が Web サーバーからリモートにインストールされている場合には、次のコマンドを使用して開始します。

```
./IBMPayServer -pmhost fully_qualified_Web_server_host_name
```

Payment Manager のパスワードを入力するためのプロンプトが表示されます。これは、Payment Manager データベースとの接続時に指定したユーザーのパスワードです。

3. Microsoft Internet Explorer 5.5 をオープンしてから以下の URL を入力して、「ストア・サービス」を開始します。

```
https://host_name.domain.com:8000/storeservices
```

「ストア・サービス・ログオン」ページが表示されます。デフォルトのインスタンス管理者ユーザー ID (wcsadmin) とデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力して、「ログオン」をクリックします。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。

4. 「ストア・アーカイブの作成」ページが表示されます。「ストア・アーカイブ」フィールドに、ストア・アーカイブの名前を入力します。入力した名前には .sar という拡張子が追加されます (たとえば、Mystore.sar)。この名前がストア・アーカイブのファイル名になります。ストア・アーカイブの作成が終了すると、それは以下の場所に保管されます。

```
/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/sar
```

5. 「ストア・ディレクトリー」フィールドに、ストアのディレクトリー名を入力します。このディレクトリー名は、サーバー上で Web 資産の発行先となるディレクトリーを定義するものです。ストア・アーカイブが発行されると、デフォルトとして、それはここで定義するストア・ディレクトリーに発行されます。たとえば、「ストア・ディレクトリー」フィールドにディレクトリー名 "Mystore" を入力した場合、以下のディレクトリーが作成されます。

```
/opt/WebSphere/AppServer/installedApps/WC_Enterprise_App_  
instance_name.ear/wcstores.war/Mystore
```

6. **Business** 「ストア所有者」ドロップダウン・リストから、ストアを所有する組織を選択します (たとえば、「Seller Organization (セラー組織)」)。

注: 「デフォルト組織」は、バイヤー組織を持たない顧客のために提供されています。デフォルト選択をストア所有者として選択しないでください。

7. 「View (表示)」ドロップダウン・リストから、表示したいサンプル・ストアを選択します。
8. 「サンプル」リスト・ボックスから、ストアの基本となるストア・アーカイブを選択します。「サンプルの説明」ボックスに、サンプルの説明が表示されます。サンプル・ストアをまず表示するには、「プレビュー」をクリックします。
9. 「OK」 をクリックします。
10. ストア・アーカイブの作成が正常に完了したことを知らせるダイアログ・ボックスがオープンします。「OK」 をクリックします。
11. 「ストア・アーカイブの発行」リストが表示されます。作成したストア・アーカイブがリスト中に表示されており、「ストア名」フィールドの名前がサンプル・ストアの名前と同じであることを注意してください。この名前は、「ストア・プロフィール」ノートブックを使って変更できます。

これで、サンプル・ストアに基づく新しいストア・アーカイブが作成されました。その結果、新しいストア・アーカイブには、サンプル・ストアと同じ内容が含まれることになります。独自のストアを作成する場合は、その情報を変更することになります。その情報を変更する方法については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプと *IBM WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド をご覧ください。このマニュアルでは、今のところその情報を変更しないでおいてください。

---

## ストア・アーカイブの発行

ストア・アーカイブを WebSphere Commerce Server に対して発行すると、実際に稼働するストアを作成できます。ストア・アーカイブの発行には、2 種類の方法があります。

- ストア・サービスからストア・アーカイブを発行する
- コマンド行からストア・アーカイブを発行する

ここでは、ストア・サービスからの発行についてのみ説明します。発行については詳しくは、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプ、および *IBM WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド をご覧ください。

## ストア・サービスからストア・アーカイブを発行する

ストア・アーカイブを WebSphere Commerce Server に対して発行すると、実際に稼働するストアを作成できます。ストア・アーカイブを発行するには、以下のようになります。

1. 以下が実行中であることを確認してください。
  - DB2
  - IBM HTTP Administration
  - IBM HTTP Server
  - WebSphere Application Server
  - WebSphere Application Server 管理コンソールで、以下のものが開始済みであることを確認します。
    - Websphere Commerce Server - *instance\_name*
    - WebSphere Payment Manager
2. Payment Manager が実行中でなければ、次のようにして IBM Payment Manager を起動します。
  - a. コマンド・ウィンドウを開き、IBM Payment Manager がインストールされているディレクトリーに移動します。
  - b. 以下のコマンドを入力します。

```
./IBMPayServer
```

Payment Manager が Web サーバーからリモートにインストールされている場合には、次のコマンドを使用して開始します。

```
./IBMPayServer -pmhost fully_qualified_web_server_host_name
```

Payment Manager のパスワードを入力するためのプロンプトが表示されます。これは、*payman* データベースに接続する際に使用するよう指定したユーザーのパスワードです。
3. サイト管理者またはストア管理者のアクセス権が必要です。ストア管理者のアクセス権が付与されている場合は、すべてのストアに対するアクセス権があることを確認してください。
4. 「ストア・サービス」の「ストア・アーカイブ」リストで、発行したいストア・アーカイブの横のチェック・ボックスを選択します。
5. 「**Publish (発行)**」をクリックします。「ストア・アーカイブの発行」ページが表示されます。

6. 発行オプションを選択します。発行オプションについては、「ヘルプ」をご覧ください。

**注:** 十分に機能するストアを作成するためには、ストア・アーカイブを初めて発行する時点で、商品データ・オプションを含むすべての発行オプションを選択してください。

7. 「OK」をクリックします。ストアが発行されると、「ストア・アーカイブ」リストのページに戻ります。「発行の状況」の列に、発行の状態が示されます。システムの速度によって、発行プロセスに数分かかることがあります。「最新表示」をクリックすると、状況が更新されます。
8. リストからストア・アーカイブを選択し、「発行の要約」をクリックすると、発行の結果が表示されます。
9. 発行が完了したら、「ストアの立ち上げ」をクリックしてストアを表示し、テストしてください。完了したら、そのサイトにブックマークを付けてブラウザをクローズします。

## JavaServer Pages ファイルのコンパイル

JavaServer Pages をコンパイルすれば、ストアのロードにかかる時間が大幅に短縮されます。JavaServer Pages (JSP) ファイルのバッチ・コンパイルを実行するには、WebSphere Commerce マシンで次のようにします。

1. コマンド・プロンプトで、`/opt/WebSphere/CommerceServer/bin` に切り換えます。
2. 次のコマンドを実行します。

```
./WCSJspBatchCompiler.sh -enterpriseApp "WebSphere  
Commerce Enterprise Application - instance_name"  
-webModule "WCS Stores" -nameServerHost "short_host_name"  
-nameServerPort port_number
```

それらのコンパイルを実行すると、いくつかのエラーが発生することがあります。それらは、無視しても問題ありません。

### 重要:

- 発行できるストア・アーカイブは、一度に 1 つだけです。複数同時の発行はサポートされておらず、同時発行すると、どのストアの発行も失敗します。
- 発行中に、整合性検査ルーチンにより、ストア・アーカイブによって参照されているファイルが存在するかどうかを確認されます。エラーがあると、ログにそのエラーが書き込まれます。発行は、通常のとおり継続されます。
- ストアを再発行する場合は、その前にディレクトリー `/opt/WebSphere/CommerceServer/instances/instance_name/cache` からファイルを削除してください。

ストア開発段階では、キャッシングをオフにしてください。そうするには、構成マネージャの「Caching (キャッシング)」パネルをオープンして、「Enable Cache (キャッシュの使用可能化)」が選択解除されていることを確認します。

- ストア・サービスからストアを立ち上げる場合、ストア・サービスへのログインで使  
用したのと同じユーザー名とパスワードを使用してストアにログインします。ストア  
でパスワードを変更すると、そのユーザーのパスワードも変更することになります。  
むしろ、パスワード変更操作などのストアの機能をテストするには、そのサイトをブ  
ックマークに登録し、ブラウザをクローズしてから、再びストアにログオンしてく  
ださい。さらに、ブラウザで以下の URL を入力することによって、ストアを立ち  
上げることもできます。

`https://host_name/webapp/wcs/stores/store_directory/index.jsp`

## ストアにテスト・オーダーを発行する

ストアにテスト・オーダーを発行するには、以下のようにします。

1. 以下のようにして、ストアをオープンします。
  - a. 「ストア・サービス」ウィンドウで、特定のストアを選択して「発行の要約」を  
クリックします。
  - b. 「発行の要約」画面で、「ストアの立ち上げ」を選択します。
  - c. ストアの Web アプリケーション Web パスを入力するためのウィンドウが表示  
されます。該当するパスを入力してください (デフォルトは  
`/webapp/wcs/stores`)。
  - d. ストアの場所を Web ブラウザーのブックマークに登録します。
  - e. 表示されているすべての Web ブラウザー・ウィンドウを閉じてから、改めて  
Web ブラウザーを開きます。
  - f. ストアのホーム・ページにナビゲートします。
2. ホーム・ページで、商品を選択します。商品ページで、「ショッピング・カートに追  
加」をクリックします。
3. オーダー・プロセスを完了します。テストとして、VISA クレジット・カードの番号  
0000000000000000 (16 個のゼロ) を使用できるでしょう。オーダーが完了していれ  
ば、オーダーの確認のページが表示されます。



---

## 第 5 部 付録



---

## 付録 A. WebSphere Commerce コンポーネントの開始と停止

この付録では、WebSphere Commerce パッケージの一部を成す各プロダクトを開始および停止する方法について説明します。任意のコンポーネントを再始動する必要がある場合に、以下の情報を参考にしてください。

---

### WebSphere Commerce の開始と停止

WebSphere Commerce インスタンスを開始または停止するには、次のようにします。

1. データベース管理システムと WebSphere Application Server が開始済みであることを確認してください。DB2 の場合、71 ページの『DB2 Universal Database の開始と停止』を参照してください。WebSphere Application Server の場合、『WebSphere Application Server の開始と停止』を参照してください。
2. 端末ウィンドウで以下のように入力して、WebSphere Application Server 管理コンソールを立ち上げます。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./adminclient.sh host_name port_number
```

3. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を展開します。
4. 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
5. ホスト名を拡張表示します。
6. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
7. 「**WebSphere Commerce Server**」 → 「*instance\_name*」を選択して、右マウス・ボタンでクリックします。必要に応じて、「**Start (始動)**」または「**Stop (停止)**」を選択します。

---

### WebSphere Application Server の開始と停止

WebSphere Application Server を開始するには、次のようにします。

1. データベース管理システムが開始されていることを確認します。
2. 端末ウィンドウに次のように入力します。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./startupServer.sh &
```

/opt/WebSphere/AppServer/logs/tracefile を調べて、WebSphere Application Server が正常に開始済みであることを確認します。

WebSphere Application Server を停止するには、以下のようにします。

1. 端末ウィンドウに次のように入力して、WebSphere Application Server 管理コンソールを開始します。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/WebSphere/AppServer/bin
./adminclient.sh
```

2. WebSphere Application Server 管理コンソールで、短いホスト名を持つノードを選択します。
3. 「Stop (停止)」ボタンをクリックします。次のような警告メッセージが表示されます。

*You are trying to stop the node that the console is connected to. (コンソールの接続先のノードを停止しようとしています。) This will cause the console to exit after the node is stopped. (停止すると、ノードの停止後にコンソールは終了してしまいます。) Do you want to continue? (続けますか)*

「Yes (はい)」をクリックして先に進みます。

4. WebSphere Application Server 管理コンソールの後、端末ウィンドウで次のようなコマンドを発行して、WebSphere Application Server 関連のプロセスがすべて停止したことを確認します。

```
ps -ef | grep AppServer
```

5. このコマンドによって Java プロセスが戻された場合、kill コマンドを発行してそれぞれのプロセスを停止します。

---

## IBM HTTP Server の開始と停止

IBM HTTP Server には、開始および停止できる以下のような 2 つのサーバーがあります。

- IBM HTTP Server
- IBM HTTP 管理サーバー

IBM HTTP Server を開始するには、端末ウィンドウで以下のコマンドを入力します。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPD/bin
./apachectl start
```

IBM HTTP Server を停止するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce と WebSphere Application Server が停止していることを確認します。

2. 端末ウィンドウに以下のコマンドを入力します。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPD/bin
./apachectl stop
```

IBM HTTP Administration Server を開始するには、端末ウィンドウで以下の一連のコマンドを入力します。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPD/bin
./adminctl start
```

IBM HTTP Administration Server を停止するには、端末ウィンドウで以下の一連のコマンドを入力します。

```
su - root
cd /opt/IBMHTTPD/bin
./adminctl stop
```

---

## DB2 Universal Database の開始と停止

DB2 Universal Database を開始するには、次のようにします。

1. DB2 インスタンス ID でログオンします。
2. db2start と入力します。

DB2 を停止するには、次のようにします。

1. 69 ページの『WebSphere Commerce の開始と停止』の手順に従って、WebSphere Commerce を停止します。
2. 69 ページの『WebSphere Application Server の開始と停止』の手順に従って、WebSphere Application Server を停止します。
3. DB2 インスタンス ID でログオンしたうえで、db2stop と入力します。いずれかのアプリケーションが DB2 に接続している場合、代わりに次のようなコマンドを使います。

```
db2stop force
```

---

## Payment Manager の開始と停止

Payment Manager の開始

Payment Manager を開始します。

1. データベースが開始されていることを確認します。
2. Web サーバーを開始します。
3. WebSphere Application Server が開始されていることを確認します。

- 『Payment Manager アプリケーション・サーバーの開始』の説明に従って、WebSphere Application Server 管理コンソールで Payment Manager アプリケーション・サーバーを開始します。
- 『Payment Manager の開始』に従って Payment Manager を開始します。

## Payment Manager アプリケーション・サーバーの開始

WebSphere Application Server 4.0.2 の使用時には、Payment Manager アプリケーション・サーバーを開始することによって、すべてのサブレットを開始できます。Payment Manager アプリケーション・サーバーを開始するには、次のようにします。

- WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
- 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を展開します。
- 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
- Payment Manager がインストールされているノードを拡張表示します。
- 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
- 「**WebSphere Payment Manager**」を右クリックして、「**開始**」を選択します。

## Payment Manager の開始

IBMPayServer スクリプトを使用して Payment Manager を開始する場合、データベース管理者のパスワードを指定することが必要になります。

端末ウィンドウに以下のコマンドを入力します。

```
su - wasuser
export DISPLAY=fully_qualified_host_name:0.0
cd /opt/PaymentManager
./IBMPayServer
```

Payment Manager が Web サーバーからリモートにインストールされている場合には、次のコマンドを使用して開始します。

```
./IBMPayServer -pmhost fully_qualified_web_server_host_name
```

Payment Manager のパスワードを入力するためのプロンプトが表示されます。

あるいは、Payment Manager インストール時に自動的に作成されたパスワード・ファイル (.payment) を使用することによって Payment Manager を開始することもできます。Payment Manager を開始するためのコマンドは、次のような構文になります。

```
./IBMPayServer -file
```

このファイルには Payment Manager パスワードがテキストとして含まれているので、この方法で Payment Manager を開始する予定でない場合には、可能な限りこのファイルを削除しておいてください。

## Payment Manager ユーザー・インターフェースの開始

Payment Manager と Payment Manager アプリケーション・サーバーが開始されたなら、次のようにして Payment Manager ユーザー・インターフェースを開始します。

1. Web ブラウザーで次のアドレスを参照します。

`http://host_name/webapp/PaymentManager/`

`host_name` は、実際の Web サーバーの完全修飾ホスト名です。

2. 「Payment Manager Logon (Payment Manager ログオン)」ウィンドウで、Payment Manager 管理者のユーザー ID とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。デフォルトのユーザー ID は `wcsadmin`、またパスワードはその `wcsadmin` のパスワードです (デフォルトで `wcsadmin` になっていますが、これは WebSphere Commerce のいずれかのコンポーネントに初めてユーザー ID `wcsadmin` でログオンした時点で変更してください)。

Payment Manager を WebSphere Commerce と共に使用している場合、WebSphere Commerce の管理者は、すべて Payment Manager のユーザーにもなります。しかし、当初 "Payment Manager administrator" の役割を割り当てられるのは、管理者 ID "wcsadmin" だけです。Payment Manager ユーザー・インターフェースにログインするためには、Payment Manager の次の 4 つの役割のいずれかを割り当てられた管理者 ID を使用する必要があります。

- Payment Manager 管理者
- マーチャント管理者
- スーパーバイザー
- クラーク

Payment Manager の役割については、*Payment Manager 管理者ガイド* を参照してください。

WebSphere Commerce の他の管理者に Payment Manager の役割を割り当てるには、管理者 ID "wcsadmin" で Payment Manager ユーザー・インターフェースにログインして、「ユーザー」管理画面を表示します。そこで、Payment Manager の 4 つの役割のいずれかを、リストに示されている他の WebSphere Commerce 管理者に割り当てることができます。

`wcsadmin` ID を使用して Payment Manager ユーザー・インターフェースにログインするには、事前にその ID のデフォルト・パスワードを変更しておく必要があります。そのためには、`wcsadmin` ユーザー ID で WebSphere Commerce 管理コンソールにログインします。その時点で、パスワードを変更するように求められます。

Payment Manager の管理機能は、WebSphere Commerce 管理コンソールからも使用できます。

Payment Manager の停止

Payment Manager を停止するには、次のようにする必要があります。

1. データベースが開始されていることを確認します。
2. WebSphere Application Server が開始されていることを確認します。
3. Payment Manager を停止します。
4. WebSphere Application Server で、Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止します。

## Payment Manager の停止

Payment Manager を停止するには、StopIBMPayServer コマンドを使用します。

1. /opt/PaymentManager ディレクトリーに移動します。
2. StopIBMPayServer と入力します。 StopIBMPayServer スクリプトには、引き数は指定しません。
3. プロンプトに対して、Payment Manager パスワードを入力します。

## Payment Manager アプリケーション・サーバーの停止

WebSphere Application Server の使用時には、Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止することによって、すべてのサーブレットを停止できます。Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止するには、次のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を展開します。
3. 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
4. Payment Manager がインストールされているノードを拡張表示します。
5. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
6. 「**WebSphere Payment Manager**」を右クリックして、「**停止**」を選択します。



---

## 付録 B. 情報の入手場所

WebSphere Commerce システムとそのコンポーネントに関するさらに詳しい情報は、さまざまな情報源からさまざまな形式で入手できます。この後の部分では、利用できる情報と利用方法を示します。

---

### WebSphere Commerce の情報

以下は、WebSphere Commerce に関する情報源です。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce PDF (Portable Document Format) ファイル
- WebSphere Commerce Web サイト

### オンライン・ヘルプの使用

WebSphere Commerce のオンライン情報は、WebSphere Commerce のカスタマイズ、管理、および再構成に関する主要な情報源です。WebSphere Commerce のインストール後、以下の URL にアクセスすることによって、オンライン情報のトピックを利用できます。

`http://host_name/wchelp`

*host\_name* は、WebSphere Commerce のインストール先マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

### 印刷可能なドキュメンテーションの入手方法

一部のオンライン情報は、PDF ファイルの形式で利用することもできます。PDF ファイルは Adobe® Acrobat® Reader を使って表示および印刷できます。Acrobat Reader は、Adobe Web サイトから無料でダウンロードできます。Web アドレスは以下のとおりです。

`http://www.adobe.com`

### WebSphere Commerce Web サイトの閲覧

WebSphere Commerce 製品に関する情報は、以下の WebSphere Commerce Web サイトで入手できます。

`http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/`

このマニュアル (すべてのアップデート・バージョンを含む) は、 WebSphere Commerce Web サイトの「Library」セクションから PDF ファイル形式で入手できます。さらに、新しい資料や更新された資料をこの Web サイトから入手できる場合があります。

---

## IBM HTTP Server の情報

IBM HTTP Server の情報は、以下の Web アドレスで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

資料は、HTML 形式、PDF ファイル、あるいはその両方で入手できます。

---

## Payment Manager の情報

Payment Manager に関する追加情報は、以下の Payment Manager Web サイトのライブラリー・リンクから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/payment>

Payment Manager のドキュメンテーションは、以下の場所で入手できます。

- IBM Payment Manager 3.1.2 CD の */docs/locale* ディレクトリー
- IBM Payment Manager 3.1.2 カセット CD の */docs/locale* ディレクトリー
- Payment Manager のインストール後、 WebSphere Application Server インストール・ディレクトリーの Payment Manager ディレクトリー内にインストールされます。

Payment Manager のドキュメンテーションとしては、以下のものを利用できます。

- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* インストール・ガイド (PDF ファイル形式、[paymgrinstall.pdf](#))
- *IBM WebSphere Payment Manager* 管理者ガイド (PDF ファイル形式、[paymgradmin.pdf](#))
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* プログラマーのガイドとリファレンス (PDF ファイル形式、[paymgrprog.pdf](#))
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for SET* 補足 (PDF ファイル形式、[paymgrset.pdf](#))
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for VisaNet Supplement* (PDF ファイル形式、[paymgrvisanet.pdf](#))
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for CyberCash* 補足 (PDF ファイル形式、[paymgrcyber.pdf](#))
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for BankServACH Supplement* (PDF ファイル形式、[paymgrbank.pdf](#))
- Payment Manager の README ファイル (HTML 形式、[readme.framework.html](#))

- IBM Cassette for SET の README ファイル (HTML 形式、[readme.set.html](#))
- IBM Cassette for VisaNet README ファイル (HTML 形式、[readme.visanet.html](#))
- IBM Cassette for CyberCash README ファイル (HTML 形式、[readme.cybercash.html](#))
- IBM Cassette for BankServACH README ファイル (HTML 形式、[readme.bankservach.html](#))

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの「*Secure Electronic Transactions*」セクションにも、Payment Manager に関する情報が含まれています。

---

## WebSphere Application Server

WebSphere Application Server に関する情報は、以下の WebSphere Application Server Web サイトで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv>

---

## DB2 Universal Database の情報

DB2 ドキュメンテーションをインストールした場合、HTML ドキュメンテーション・ファイルが `/doc/locale/html` サブディレクトリーにあります。ただし、*locale* はローカルの言語コードです (たとえば米国英語の場合は *en*)。各国語で入手できないドキュメンテーションは、英語で表示されます。

入手可能な DB2 の資料のリスト、およびそれを表示したり印刷したりする方法については、*DB2 概説およびインストール (UNIX 版)* のマニュアルをご覧ください。DB2 の追加情報は、以下の Web アドレスで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2>

---

## Solaris Operating Environment ソフトウェアの情報

Solaris ソフトウェアのサポートや Solaris ソフトウェアに関するその他の情報については、以下の Web サイトをご覧ください。

<http://www.sun.com/solaris>

---

## ダウンロード可能なツール

### WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker

WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker (IC Checker) は、スタンダードアロンのダウンロード可能な問題判別ツールです。これを使用して、WebSphere

Commerce のインストールと構成を検査することができます。IC Checker は構成データとログを収集して、簡単なエラー検査を実行します。以下に、WebSphere Commerce IC Checker についての説明を示します。

- 現在サポートされている製品は、WebSphere Commerce Suite 5.1 Start Edition と Pro Edition、WebSphere Commerce 5.1 Business Edition、および WebSphere Commerce 5.4 Professional Edition と Business Edition です。
- このツールは、以下の URL でアクセスしてダウンロードすることができます。

[http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/whats\\_new\\_support.html](http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/whats_new_support.html)

[http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc\\_be/support-tools.html](http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/support-tools.html)

---

## その他の IBM 出版物

ほとんどの IBM 出版物は、IBM 指定販売業者または IBM の営業担当員にお問い合わせいただくことにより、購入できます。

---

## 付録 C. プログラム仕様と所定稼働環境

このバージョンの WebSphere Commerce では、以下の稼働環境がサポートされています。

- Solaris 8 Operating Environment (SPARC プラットフォーム版) ソフトウェア、最新の Solaris Patch Cluster をインストール済み

**注:** WebSphere Commerce において、Solaris 8 Operating Environment (Intel プラットフォーム版) ソフトウェアは稼働環境としてサポートされていません。

WebSphere Commerce 5.4 には、以下のコンポーネントが含まれています。

### WebSphere Commerce Server

WebSphere Commerce Server は、e-commerce ソリューション内のストアおよびコマース関連機能を処理します。以下のコンポーネントによって機能が提供されています。

- ツール (ストア・サービス、ローダー・パッケージ、Commerce Accelerator、管理コンソール)
- サブシステム (カタログ、メンバー、ネゴシエーション、オーダー)
- 商品アドバイザー
- 共通サーバー・ランタイム
- システム管理
- メッセージング・サービス
- WebSphere Application Server

### ストア・サービス

ストア・サービスは、ストアの特定の運用機能を作成したり、カスタマイズしたり保守するための中心点を提供します。

### ローダー・パッケージ

ローダー・パッケージを使用すると、ASCII および XML ファイルによる商品情報の初期ロードが可能になります。また、全体情報、または部分的な情報のインクリメンタル更新もできます。オンライン・カタログを更新するには、このツールを使用します。

### WebSphere Commerce Accelerator

ストア・データおよび商品データが作成されたら、それを WebSphere Commerce Accelerator で使用して、ストアを管理し、ビジネス戦略を促進します。WebSphere Commerce Accelerator は、WebSphere Commerce がオンライ

ン・ストアを運営するために配布するすべての機能 (ストア管理、商品管理、マーケティング、顧客のオーダー、顧客サービスなど) のための統合ポイントを提供します。

### **WebSphere Commerce 管理コンソール**

サイト管理者またはストア管理者は、管理コンソールを使うことによって、サイトおよびストアの構成に関連したタスクを実行できます。

- ユーザーおよびグループの管理 (アクセス・コントロール)
- パフォーマンス・モニター
- メッセージングの構成
- IBM WebSphere Payment Manager の機能
- Brokat Blaze Rules の管理

WebSphere Commerce 5.4 には、以下の製品がバンドルおよびサポートされています。

### **IBM DB2 Universal Database 7.1.0.55**

DB2 Universal Database は、サイトに関するあらゆる情報のリポジトリとして、WebSphere Commerce によって使用される、機能の充実したリレーショナル・データベースです。それには、商品データとカテゴリー・データ、ページのグラフィック・エレメントへのポインター、オーダー状況、住所情報、その他の多岐にわたるデータが含まれます。

### **DB2 Extenders**

DB2 Extenders は DB2 のオプション・コンポーネントであり、サイトのための付加的な検索機能を提供します。DB2 Text Extender は、顧客による多種多様な検索をサポートします。それには、同義語検索、不完全一致や類似語の検索、そしてブール検索やワイルドカード検索が含まれます。

### **IBM HTTP Server 1.3.19.1**

IBM HTTP Server は、さまざまな管理機能を提供する堅固な Web サーバーです。提供される機能には、Java デプロイメントのサポート、プロキシ・サーバーのサービス、そしてクライアント / サーバーの認証やデータ暗号化などの SSL 3 のサポートを含むセキュリティー機能が含まれます。

### **IBM Payment Manager 3.1.2**

Payment Manager は、SET (Secure Electronic Transaction) や Merchant Originated Payment など、さまざまな方法を使用したマーチャント用リアルタイム・インターネット支払い処理を提供します。

### **WebSphere Application Server 4.0.2**

WebSphere Application Server は、インターネットおよびイントラネット Web アプリケーションを作成、デプロイ、管理するための Java ベースのアプリケーション環境です。この製品には Sun JDK 1.3.1.01 が含まれています。

### **IBM WebSphere Commerce Analyzer 5.4**

IBM WebSphere Commerce Analyzer は、WebSphere Commerce のオプション

としてインストールされる新しい機能です。 IBM WebSphere Commerce Analyzer のエントリー版 (WebSphere Commerce 専用) は、顧客プロファイルやキャンペーン・パフォーマンスのモニターのためのレポート機能を提供します。レポートはカスタマイズできません。 IBM WebSphere Commerce Analyzer は、Brio Broadcast Server がなければインストールできません。

### **Brio Broadcast Server**

Brio Broadcast Server は、照会の処理およびレポートの配布を自動化するバッチ処理サーバーです。 Brio Broadcast Server は大量のデータを大勢の人々に配布できますが、セキュリティ保護が製品に組み込まれているので、管理者はデータベースへのアクセスおよび文書の配布を厳重に制御できます。

### **IBM SecureWay Directory Server 3.2.1**

IBM SecureWay<sup>®</sup> Directory は、アプリケーション固有のディレクトリーの急増 (コストの増加の主要な要因となる) を解消するための共通ディレクトリーを提供します。 IBM SecureWay Directory は、LDAP のクロス・プラットフォームであり、セキュリティおよび e-business ソリューションに対して、高度にスケーラブルで、堅固なディレクトリー・サーバーです。 WebSphere Commerce に付属の SecureWay のバージョンは 3.1.1.5 ですが、現在では、 Web からダウンロード可能な IBM SecureWay Directory Server 3.2.1 がサポートされています。

### **Segue SilkPreview 1.0**

Segue SilkPreview は、アプリケーション開発の総合的な結果分析とレポートのための情報リポジトリーです。

### **WebSphere Commerce Recommendation Engine powered by LikeMinds 5.4**

Macromedia LikeMinds は、個々の Web 利用者に対して、商品推奨とターゲットを絞った販売促進を行います。これは、共同フィルター操作および市場バスケット分析に基づく、Personalization サーバーです。





---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の動作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む。）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31

IBM World Trade Asia Corporation  
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書は定期的に見直され、必要な変更（たとえば、技術的に不適切な表現や誤植など）は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Ltd.  
Office of the Lab Director  
8200 Warden Avenue  
Markham, Ontario  
L6G 1C7  
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この製品で使用されているクレジット・カードのイメージ、商標、商号は、そのクレジット・カードを利用して支払うことを、それら商標等の所有者によって許可された人のみが、使用することができます。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

AIX	DB2	DB2 Extenders
DB2 Universal Database	HotMedia	IBM
	WebSphere	

Notes、および Lotus は、Lotus Development Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Action Media、LANDesk、MMX、Pentium および ProShare は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

SET、SET ロゴ、SET Secure Electronic Transaction および Secure Electronic Transaction は、SET Secure Electronic Transaction LLC の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。



# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

- インスタンス・ノード、構成マネージャー 45
- インストール
  - インストール前 9
  - 前提条件ソフトウェア要件 10
  - 前提条件となるハードウェア要件 10
  - その他の要件 11
  - 知識、必要な 9
  - ロータス ノーツ 11
  - DB2 UDB FixPak 17
  - DB2 Universal Database 17
  - Payment Server 35
  - WebSphere Application Server 25
  - WebSphere Commerce 31
- インストール前
  - その他の要件 11
  - ソフトウェア要件 10
  - 知識、必要な 9
  - ハードウェア要件 10
  - 要件 9
  - ロータス ノーツ 11
  - Payment Manager 35
- インストール・パス (デフォルト) 4
- オークション・ノード、構成マネージャー 51

## [カ行]

- 開始
  - IBM HTTP Server 70
  - Payment Manager 71
  - Payment Manager Engine 72

- 開始 (続き)
  - Payment Manager ユーザー・インターフェース 73
- 規則、本書で使用する 3
- 構成作業
  - WebSphere Commerce のインスタンス 43
- 構成マネージャー
  - インスタンス・ノード 45
  - オークション・ノード 51
  - 作成、インスタンスの 43
  - データベース・ノード 45
  - メッセージング・ノード 50
  - ログ・システム・ノード 49
  - Payment Manager ノード 48
  - Web サーバー・ノード 47
  - WebSphere ノード 48

## [サ行]

- 最新の変更事項 3
- サポートされる Web ブラウザー 4
- 商品アドバイザー
  - ポート番号、使用される 4
- 情報
  - 印刷可能な資料 75
  - 概要、本書の 3
  - 規則、本書で使用する 3
  - 最新の変更事項 3
  - 使用、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの 75
  - デフォルトのインストール・パス 4
  - DB2 Universal Database の情報 77
  - DB2 Universal Database のホーム・ページ 77
  - IBM HTTP Server のホーム・ページ 76
  - Payment Manager README 35

- 情報 (続き)
  - Payment Manager のホーム・ページ 76
  - README 3
  - Solaris Operating Environment ソフトウェア 77
  - WebSphere Application Server のホーム・ページ 77
  - WebSphere Commerce 75
  - WebSphere Commerce の Web サイト 3
  - WebSphere Commerce のホーム・ページ 75
- 所定稼働環境 79
- その他のインストール前提要件 11

## [タ行]

- データベース・ノード、構成マネージャー 45
- 停止
  - IBM HTTP Server 70
  - Payment Manager 71, 74
  - Payment Manager Engine、WebSphere Application Server を使った 72
  - Payment Manager、StopIBMPayServer を使用 74
  - Payment Manager、WebSphere Application Server を使用 74
  - デフォルトのインストール・パス 4

## [ハ行]

- ハードコピー情報 75
- プログラム仕様 79
- ポート番号、WebSphere Commerce によって使用される 4
- 本書の概要 3

## [マ行]

まえがき 3  
メッセージング・ノード、構成マネージャー 50

## [ヤ行]

ユーザー ID とパスワード  
iSeries ユーザー・プロファイル 6  
要件  
インスタンスを構成する前に 41  
その他の要件 11  
ソフトウェア 10  
知識 9  
ハードウェア 10  
ロータス ノーツ 11  
iSeries ユーザー・プロファイル 6

## [ラ行]

ロータス ノーツ 11  
ログ・システム・ノード、構成マネージャー 49

## D

DB2 Universal Database  
インストール 17  
オンライン情報 77  
開始と停止 71  
データベース・ノード、構成マネージャー 45  
パスワード基準 19  
ポート番号、使用される 4  
ホーム・ページ 77

## I

IBM HTTP Server  
開始と停止 70  
ポート番号、使用される 4  
ホーム・ページ 76  
Internet Explorer 4

iSeries ユーザー・プロファイルの要件 6

## L

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)  
ポート番号、使用される 4

## N

Netscape Communicator 4  
Netscape Navigator 4

## P

Payment Manager  
インストール 35  
インストールの前提条件 35  
開始と停止 71  
停止 74  
ノード、構成マネージャー 48  
ポート番号、使用される 4  
ホーム・ページ 76  
Payment Manager Engine の開始 72  
Payment Manager の停止 74  
Payment Manager ユーザー・インターフェースの開始 73  
StopIBMPayServer コマンド 74  
WebSphere Application Server を使用して Payment Manager を停止する 74  
WebSphere Application Server を使った Payment Manager Engine の停止 72  
Payment Manager ノード、構成マネージャー 48

## R

README ファイル 3

## S

Solaris Operating Environment ソフトウェアの情報 77  
StopIBMPayServer Payment Manager コマンド 74

## W

Web サーバー・ノード、構成マネージャー 47  
Web ブラウザー、サポートされる 4  
WebSphere Application Server  
インストール 25  
ポート番号、使用される 4  
ホーム・ページ 77  
メッセージング・ノード、構成マネージャー 50  
WebSphere ノード、構成マネージャー 48  
WebSphere Commerce  
開始と停止 69  
構成前 41  
作成と更新、インスタンスの 43  
使用、オンライン・ヘルプの 75  
情報源 75  
入手方法、印刷可能なドキュメンテーションの 75  
プログラム仕様と所定稼働環境 79  
ポート番号、使用される 4  
ホーム・ページ 75  
WebSphere Commerce インスタンス  
インスタンス・ノード、構成マネージャー 45  
オークション・ノード、構成マネージャー 51  
構成前 41  
作成ウィザード 44  
作成と更新 43  
データベース・ノード、構成マネージャー 45  
メッセージング・ノード、構成マネージャー 50

WebSphere Commerce インスタンス

(続き)

ログ・システム・ノード、構成マネージャー 49

Payment Manager ノード、構成マネージャー 48

Web サーバー・ノード、構成マネージャー 47

WebSphere ノード、構成マネージャー 48

WebSphere Commerce の Web サイト 3

WebSphere Commerce、インストール 31

WebSphere ノード、構成マネージャー 48









部品番号: CT027JA

Printed in Japan

GC88-9275-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

(1P) P/N: CT027JA

